公開日：
2025 年 5 月 2 日

執筆者：
ユニファイド コミュニケーションおよびコラボレーション担当主席アナリスト、Prachi Nema

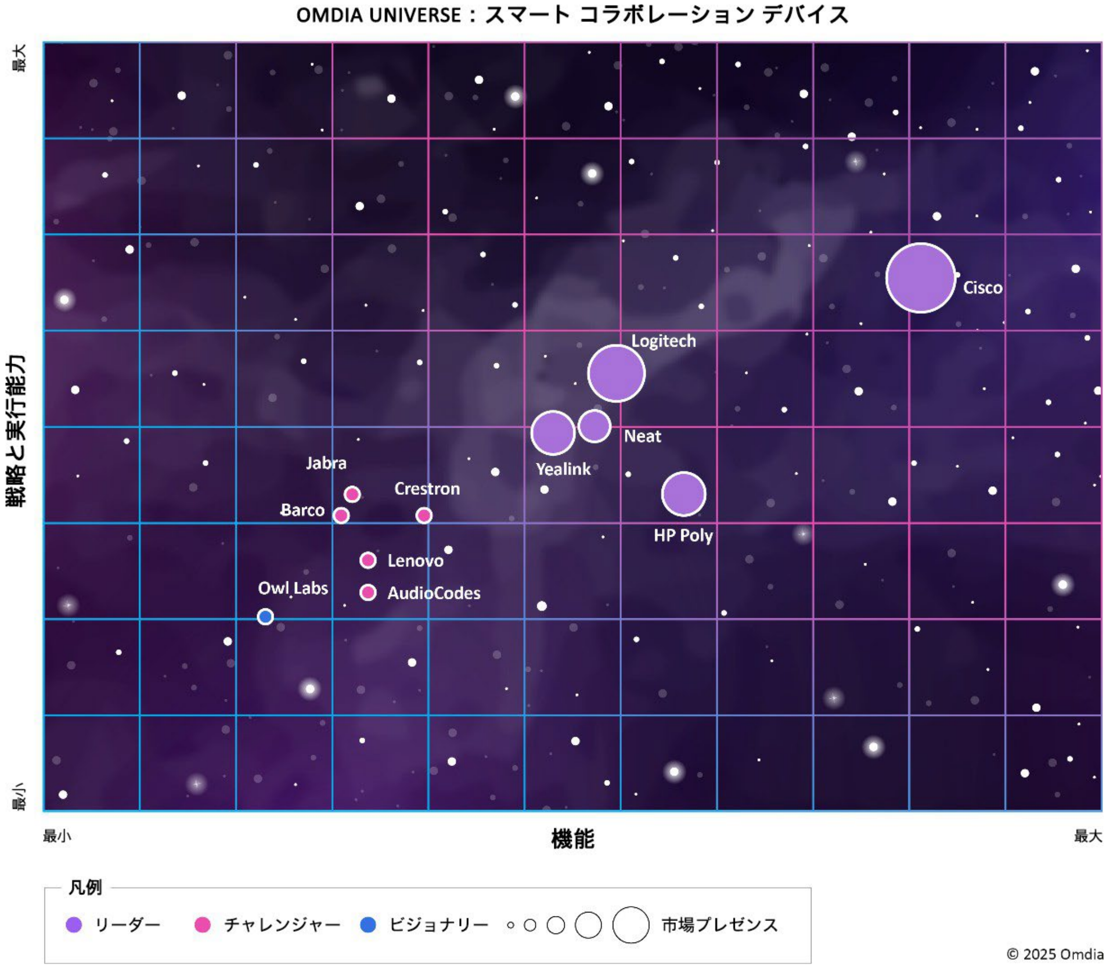
Omdia Universe：スマート コラボレーション デバイス 2025

サマリー

本レポートの目的

『Omdia Universe：スマート コラボレーション デバイス』は、ビデオ会議（VC）市場の上位 11 社を分析し、ハイブリッドワーク時代を進んでいく企業に重要なインサイトを提供することを目的としてします。組織が高度なコラボレーションツールによる生産性向上を優先する中で、絶え間ないイノベーションを通じて競争環境は進化を続けています。このレポートは、会議室戦略を策定中の企業を対象に、適切なベンダーを選択してコラボレーションを強化し、VC 投資の ROI を最大化するためのガイダンスを示します。

図 1：Omdia Universe：スマート コラボレーション デバイス



出典：Omdia

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

Omdia の見解

Omdia Universe グリッド（**図 1**）は、同等の製品を提供している 2 つのベンダークラスタを示しています。このビューは、製品の機能、戦略、実行能力に関連する 18 の固有のカテゴリ（これをさらに 20 のサブカテゴリに分類）に関する各ベンダーのデータを統合し、平均したものです。企業はこのグリッドビューをさらに詳しく分析する必要があります。特定のカテゴリで非常に優れたパフォーマンスを示すベンダーもあれば、別の分野で優れているベンダーもあるからです。つまり、具体的なビジネス要件に合ったベンダーを選択することが重要です。ベンダーとそのポートフォリオをサブカテゴリレベルで調べることで、より包括的かつ詳細に状況を把握できます。これが、Omdia がこの Universe レポートを作成した理由の 1 つです。

この Omdia Universe グリッドは、戦略的な観点から以下の点に注目しています。

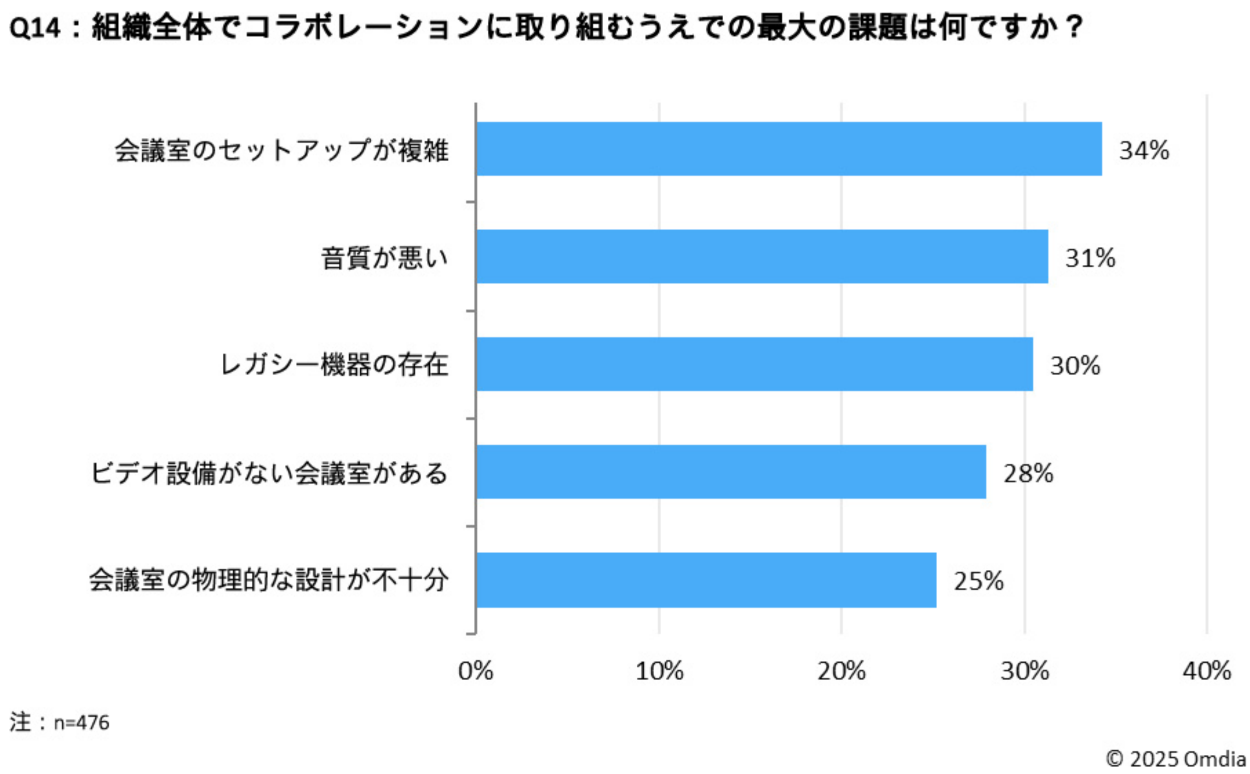
- 右上隅に位置しているシスコは、ソリューション機能（X 軸）、市場シェア（円の大きさ）、戦略と実行能力（Y 軸）の 3 カテゴリすべてで際立っており、マーケットリーダーとしての地位を明らかに確立しています。
- 右上区画のベンダークラスタも、製品機能と確実な戦略と実行能力で市場をリードしています。
- 2 番目のベンダークラスタは、イノベーションを急速に進め、ソリューション機能と市場参入（GTM）戦略を強化しており、非常に競争力のある存在となっています。
- グリッド上にビジョナリー企業が 1 社だけ存在します。適切な戦略、実行能力、製品ポートフォリオの強化により、チャレンジャー企業に移行する可能性が大きいと考えられます。

この分析は、会議室デバイスにおけるシームレスな統合や人工知能（AI）搭載機能に対する需要の高まりなど、現在の市場動向を考慮した競争環境を浮き彫りにしています。チャレンジャー企業とビジョナリー企業は、イノベーションを進め、実行戦略を練り、市場シェアと顧客満足度を高めることに注力する必要があります。一方、リーダー企業は勢いを維持しなければなりません。

Omdia が 2025 年 1 月に公開した VC デバイス調査によって、企業がテクノロジーを活用してコラボレーションを強化する際に直面する主な 5 つの課題が明らかになっています。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

図 2：コラボレーションニーズに対応するうえでの課題



出典：Omdia

大企業は他にも、購入アプローチが多様であるために会議室のアップグレードプロジェクトの調整が必要という課題に直面しています。CIO、コミュニケーションリーダー、人事（HR）、プロ AV チーム、総務、IT チームなど、さまざまな購買担当者が存在し、それぞれ独自の要件があります。部門、地域、ユースケース間で異なる予算と技術的優先事項を考慮するには、選択肢を評価する民主的なアプローチが最も重要です。もう 1 つの課題は、複雑で多様な会議スペースを管理し、効果と ROI を向上させることです。多くの場合、組織は AV 機器の設置業者や販売代理店といった専門のサードパーティから、展開すべきソリューションのタイプや、設置、運用、メンテナンスにかかる会議室ごとの費用についてアドバイスを受けます。しかし、市場で入手可能なさまざまなベンダーソリューションの価値提案を完全に理解しているわけではありません。この Omdia Universe では、ビデオ会議およびコラボレーションデバイスの市場環境に焦点を当て、ダイナミックでありながら成熟したこの市場でデバイスをどのように選択すべきかを示します。

上図の課題はすべて、個別の問題というよりも、多くは重なっています。そのため、企業はこれらの課題に総合的に対処するための最適なソリューションを見極める必要があります。**表 1** は、ベンダー評価の際に企業が求めていることをまとめたものです。Omdia は慎重な評価の結果、これらの課題に対処できる 11 社を絞り込み、各社に Omdia Universe への情報提供を求め、Yealink と Lenovo を除く全社から回答を得ました。ただし、市場の状況を公正に示すために、Yealink と Lenovo についても、両社の製品とサービスに関する Omdia の知識に基づき、評価対象に含めています（**図 1** 参照）。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

表 1：顧客の課題と期待

課題	企業の期待
会議室のセットアップが複雑	広範なポートフォリオを提供するベンダー 自動プロビジョニング、容易な展開とセットアップ 自動設定機能を持つデバイス 使いやすいインターフェイスでインストールと設定を簡素化 AI を活用したプロビジョニング
音質が悪い	AI を活用した高度なオーディオテクノロジー：AI ノイズキャンセリング、エコーリダクション、ビームフォーミングマイクおよびスピーカーを備えたデバイス
レガシー機器の存在	互換性と統合：下位互換性と既存のシステムとのシームレスな統合をサポートするデバイス 相互運用性ソリューション カスタマーサポート
ビデオ設備がないスペースがある	BYOD ルームの革新的なサポート方法 手頃な価格の BYOD ルームソリューション すべての会議室にビデオ設備を備えるための、AI を活用した費用対効果の高いカメラおよびビデオ会議システム
会議室の物理的な設計が不十分	柔軟で適応性の高いデバイス：さまざまな会議室のレイアウトや大きさに合わせて簡単に調整または移動できるデバイス アクセサリのサポート 会議室設計ソフトウェア システムインテグレータ（SI）主導の導入

出典：Omdia

スマート コラボレーション デバイス分野の分析

市場の定義

スマート コラボレーション デバイスとは、基本的に、グループや個人のコラボレーションニーズに応える AI 機能を備えたビデオ会議デバイスです。小規模なハドルルーム、中規模から大規模の会議室、高インパクトなスペース、オープンスペース、従業員の個人利用向けデスクなど、さまざまな環境に対応するように設計できます。これらのデバイスでは、AI を活用した顔認識、人数カウント、背景雑音除去、音声とビデオの強化、発言者とプレゼンターの追跡、ダイナミック自動フレーミング、エコーキャンセリングなど、多くの機能を提供できます。また、複数のカメラ角度を使用して、リモート参加者に最適なビューを提供できます。こうしたデバイスには、一般に以下のようなものがあります。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

- **1. ルームキット**：以下の要素が連動して 1 つのシステムとして機能する組み立てキットです。
  - **a. USB カメラ**：ビデオをキャプチャする高解像度（HD）カメラ
  - **b. マイク**：クリアな音声を転送できる高品質マイク
  - **c. スピーカー**：参加者にクリアな音を届けるスピーカーフォン
  - **d. コントローラ**：従業員が会議を管理するためのデバイスまたはソフトウェア
  - **e. コンピューティング**：コラボレーション会議サービスルームのクライアントを実行する処理プラットフォーム
- **2. オールインワンビデオバー**：コンピューティング、マイク、スピーカー、内蔵カメラを備えた Android ベースのデバイスです。
- **3. オールインワン コラボレーション ボード**：Android または Windows ベースのコンピューティング、マイク、スピーカー、内蔵カメラを備えたタッチセンサー付きオールインワンディスプレイです。ユーザーが注釈を付けたり、ビデオ会議に参加したりできます。
- **4. 標準ベース/H.323 エンドポイント**：ソリューションには、ビデオの圧縮と解凍（コーデック）を行う統合型または独立型ハードウェアと、オンプレミスベースのインフラストラクチャで動作するカメラ、または相互運用性ソリューションである Cloud Video Interop（CVI）を使用してクラウドベースのサービスを使用するカメラが含まれます。
- **5. USB カメラ**：ルームシステムを構築するために使用できるカメラ、または Bring Your Own Device（BYOD）ルームに展開できるカメラです。
- **6. ワイヤレス会議ソリューション**：BYOD ルームに展開されるソリューションです。ユーザーは自分のラップトップを持ち込み、会議室の周辺機器を使用してワイヤレスで会議を行うことができます。

この調査では、次のコアカテゴリと詳細カテゴリを評価しました。

- **中小規模の会議室向けのソリューション：**SIP/H.323 エンドポイント、Android、Windows ベースのソリューションなど、中小規模の会議室に展開できるあらゆるタイプのソリューションを検討しました。ルームキット、ワイヤレス会議ソリューション、オールインワンのデスクトップタイプ ソリューション、ビデオバー、USB 会議カメラなど、すべてのフォームファクタを評価対象とし、主に、Zoom、Microsoft、Google、RingCentral、Cisco Webex で動作する認定ソリューションを検討しました。
- **大規模会議室および高インパクトなスペース向けのソリューション：**広い会議室で使用する SIP/H.323、Android、Windows ベースのソリューションを検討しました。ルームキット、コラボレーションボード、ビデオバーなど、すべてのフォームファクタを評価対象とし、エコシステムプレーヤーによる製品認定、およびエコシステムプレーヤーとのパートナーシップにより、大規模スペースに適したバンドルを作成できるかどうかを評価しました。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

- **オープン コラボレーション スペース向けのソリューション：**オープンスペースの価値提案を強化する機能、ソリューション、テクノロジーを検討しました。これには、オープンスペースでの音声とビデオの品質を向上させる AI 活用機能や、コラボレーションボードやセンサーなどの移動式デバイスが含まれます。
- **個人利用向けのソリューション：**評価対象の主要デバイスには、Web カメラとオールインワンデスクトップが含まれます。
- **スマートな統合：**Unified Communications as a Service（UCaaS）プラットフォームとのシームレスな接続、AI を使用した自動化、さまざまな補完的なハードウェアおよびソフトウェアソリューションとの相互運用性の確保について評価しました。また、リモートアクセスのためのクラウド統合、堅牢なセキュリティ機能、使いやすいインターフェイスによる全体的な体験の向上も評価に含まれます。
- **補完的ソリューション：**コンピューティング、デスク予約、会議室予約パネル、IP 電話、コラボレーション会議サービス、AI ベースのサービスなど、ベンダーが提供している補完的なサービスを評価しました。これにより、あらゆるコラボレーションのニーズをサポートする、より統合的なソリューションをベンダーが提供できるかどうかを把握できます。
- **モニタリングと管理：**インタラクティブ ダッシュボードを使用して会議室のデバイスの分析、モニタリング、プロビジョニング、障害対応、管理を行うソリューションについて評価しました。クラウドベースのダッシュボードは、会議室の使用状況、デバイスのステータス、エネルギー消費統計、デバイスの正常性、ファームウェアの更新など、さまざまな領域でインサイトを提供します。多様なレポートを提供できる能力が求められます。また、カスタムダッシュボードとレポートを作成する機能も必要です。
- **特長：**このカテゴリには、音声とビデオの強化、AI 機能、カメラの仕様、補完的ソリューション、API を使用した統合などがあります。
- **ポートフォリオの機能：**デバイス管理、デバイスの互換性（さまざまなデバイスがシームレスに連携できるかどうか）、セキュリティ（デバイスとデータを保護する対策を実施しているか）、拡張性、相互運用性、持続可能性、および補完的なサービスについて検討しました。この包括的なアプローチにより、ポートフォリオ内の全デバイスのパフォーマンスが最適化されます。
- **セキュリティとコンプライアンス：**セキュリティとコンプライアンスに関する機能には、カメラ制御、デバイスアクセス、Wi-Fi 対応セキュリティ、エンドツーエンドの暗号化などがあります。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

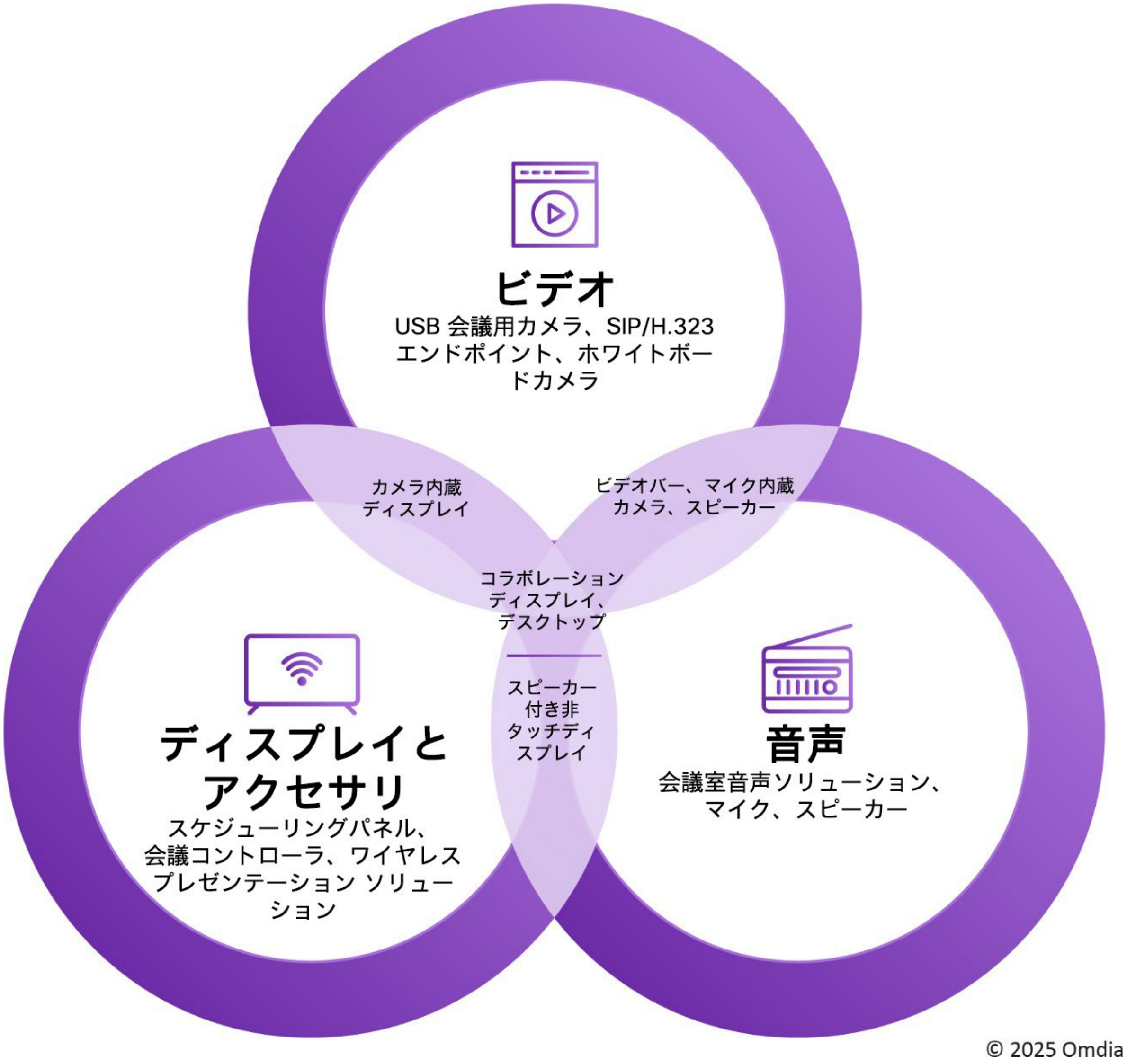
ベンダーポートフォリオを比較する際、特長や機能のみに注目することが多く、ベンダーの収益成長、GTM 戦略、ソリューションの最適化、展開、管理や、カスタマーサポート、ロードマップ、パートナーシップといった、より広い文脈は見落としがちです。これらの課題の重要性を認識し、次の 8 つの主要基準に関するベンダーのパフォーマンスも評価しました。

- **イノベーション**：デバイスにおける AI の開発および展開のイノベーション（AI 機能、AI チップ、クラウド インフラストラクチャなど）を指します。
- **戦略とロードマップ**：特定の業種やターゲット層に合わせたイノベーションや、外部関係者に対するオープンな姿勢とコラボレーションの度合いを指します。
- **ベンダーの GTM 戦略**：チャネル主導、小売、直販、関連モデルなどの戦術が含まれます。
- **業種および地理的なカバー範囲**：ポートフォリオが対象とする業種の数を示します。
- **パートナーとエコシステム**：ベンダーのローカルおよびグローバルのディストリビューション パートナーおよびシステムインテグレータの多様さと、エコシステムにおけるそれらの企業の役割を示します。
- **顧客体験**：Omdia のアンケートとオンラインレビューを使用して、ベンダーのネットプロモータースコア（NPS）を評価しました。
- **製品品質**：製品の評価にあたっては、テスト結果、ベンダー主導のデモ、Web での製品レビュー、主要なデバイスのコンポーネントを総合的に考慮しました。
- **収益と出荷数の増加**：2021 年から 2024 年までのベンダーの収益成長率と出荷数を分析しました。

図 3 に、スマート コラボレーション デバイスの概要を示しています。なお、この分析では、コラボレーションボードを除き、非タッチディスプレイとタッチディスプレイの違いは考慮していません。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

図 3：ビデオ コラボレーション デバイス：概要



出典：Omdia

市場の変遷

ビデオ会議デバイス市場は競争の激しい市場です。理由は次のとおりです。

- **多数のベンダーの存在**：多くの企業がビデオ会議デバイスを提供しています。Omdia は毎四半期、この市場の 50 社以上を追跡しています。
- **製品の類似性**：カメラ、マイク、統合システムなど、複数のベンダーから同等製品が提供されており、消費者にとってはブランドの切り替えが容易です。ただし、別の管理プラットフォームに移行する必要もあるため、注意が必要です。その結果、多様なデバイスに遭遇することが多くなり、デバイス管理の課題が増えます。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

- **イノベーションと差別化**：ベンダーは競争力を高めるために継続的に製品のイノベーションと差別化を図っていますが、コアとなる機能は依然として互いに類似しています。
- **消費者が自由に選択**：多くのベンダーが存在するということは、消費者に幅広い選択肢があり、競争が激化することを意味します。
- **価格：** ビデオ会議デバイスの市場は多様であり、多くのベンダーが供給に貢献しています。この多様性により、どのベンダーも価格を支配（左右）できるほどの十分な影響力を持っていません。

市場は比較的成熟しているにもかかわらず競争が激しいため、Omdia は市場が次のテーマによる急速な統合を経て進化していると捉えています。

- **製品の統合：** ビデオ会議には高品質の音声とビデオが不可欠であり、特に音声が重要です。どのベンダーも音声とビデオの専門技術の強化に投資しており、フルレンジスピーカー、高解像度カメラ、マイクアレイ、高度なデジタルシグナルプロセッサ（DSP）を搭載した最新のオールインワンビデオバーが生まれました。ビデオバーの売上は拡大しており、Omdia は 2029 年までに 23% の年平均成長率（CAGR）を予測しています。
- **会議室プラットフォームの統合：** 企業は、会議室で使用する UCaaS プラットフォームを一本化しようとする傾向にありますが、これが必ずしも理想的とは限りません。IT 部門は、プロセスを充実させ、管理を簡素化するために標準化を求めていますが、従業員は、社外のクライアント、サプライヤ、パートナーなどとの会議にさまざまな会議プラットフォームを使用することが一般的です。社外とのコミュニケーションは、さまざまなプラットフォームで活発に行われていますが、社内のコラボレーションでは統一されたアプローチの方が便利なため、大規模な組織ではバランスが求められます。Omdia の調査では、柔軟性のある会議室が最も支持されていることが判明しています。
- **ベンダーの統合：** デバイス市場はコモディティ化されており、約 50 社が Android ベースのビデオバーを提供しています。Microsoft Teams と Zoom の認定を受けたベンダーも存在します。急速な事業化により差別化が最小限に抑えられているため、多くの企業が再編や多様化を進めています。また、HP Poly が Humane を買収したように、AI スタートアップの買収も進めて機能を強化しています。新しいスタートアップは、AI を活用したコラボレーション ソリューションの導入も進めています。
- **オペレーティングシステム（OS）の統合：** Windows ベースのルームシステムには、一貫性のある更新や既存の IT ポリシーとの統合といったメリットがあり、サードパーティのセキュリティツールと管理ツールは不要です。これにより、Intune や Azure などのシステムを使用した統合インターフェイスを通じて障害対応を行うことができ、拡張についても、Microsoft Teams Rooms（MTR）や周辺機器用の追加アプリケーションを使用すれば、十分な知識に基づいて柔軟に行うことができます。ただし Omdia は、展開が容易でセキュリティと管理のオプションが向上している Android ベースのソリューションへの急速な移行を予想しています。Microsoft は MDEP（Microsoft Devices Ecosystem Platform）を採用していますが、今後 2 年以内には Android ベースのソリューションの市場が Windows ベースのソリューションの展開を上回ると考えられます。

Omdia はこの調査を基に、2025 年の市場を次のように予測します。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

図 4：スマート コラボレーション デバイス市場のベンダーランキング

ベンダー	評価対象製品
リーダー	
シスコ	シスコのビデオ会議デバイス
HP Poly	HP Poly のビデオ会議デバイス
Logitech	Logitech のビデオ会議デバイス
Neat	Neat のビデオ会議デバイス
Yealink	Yealink のビデオ会議デバイス
チャレンジャー	
AudioCodes	AudioCodes の会議室ソリューション
Barco	Clickshare 会議システム
Crestron	Crestron の会議室ソリューション
Jabra	会議室カメラ
Lenovo	Think Smart シリーズ
ビジョナリー	
Owl Labs	Owl Labs のビデオ会議デバイス

© 2025 Omdia

出典：Omdia

マーケットリーダー

マーケットリーダー（上の**図 4** 参照）は、Omdia が事前に設定したとおり、全体的なソリューション機能で 75% 以上のスコアを達成しています。各機能は 1 ～ 5 のスケールで評価しています。戦略と実行能力に関しては、すべてのリーダー企業が 70% を超えるスコアを獲得しています。また、ソリューションの幅広さのスコアでも 79% 以上を記録しました（ソリューションの幅広さとは、全スコアに対する「4」または「5」の割合を示す計算スコアです）。リーダーとチャレンジャーの違いは、**図 1** に最も明確に示されています。

マーケットチャレンジャー

マーケットチャレンジャーはすべて 70% ~ 75% のソリューション機能スコアを記録し、ソリューションの幅広さは 50% ~ 79% でした。戦略と実行能力に関しては、一部のチャレンジャーがリーダーと同等のスコアを記録しました。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

ビジョナリー

このレポートでビジョナリー企業に選ばれたのは Owl Labs でした。USB ポートフォリオでリードしており、その素晴らしい成果により、この Universe の最終候補に入り、ビジョナリー企業として選出されました。

商機：AI、拡張現実（AR）、仮想現実（VR）、3D レンダリング

ビデオ会議デバイスは、生産性向上に役立ち、デジタル トランスフォーメーションに欠かせません。組織のデジタル化にはテクノロジーと人材の変化が伴います。IT 部門は、スマート コラボレーション デバイスを変革の手段として活用できる可能性があり、企業のデジタル化推進に必要なテクノロジーと、チームのコラボレーション、創造性、生産性の向上に役立つテクノロジーを組み合わせています。Omdia の推定によれば、世界的に見て、ビデオ会議に対応している会議室は 25% 未満にとどまっており、ベンダーにとっては拡大と成長のチャンスが十分に残されています。

3D テクノロジー、AI、AR、VR を会議サービスやデバイスに統合することは、商機として今なお重要です。コラボレーション会議サービスのベンダーとデバイスメーカーが、従業員の生産性と体験を向上させるために AI を採用して収益化を図るなか、AI 機能をデバイスに組み込むのか、それともクラウドに置くのかという議論は、今後も続くでしょう。デバイスベンダーは、高度な AI 機能をデバイスに直接統合することで、ネットワーク帯域幅の要件を緩和できます。このローカルな処理により、帯域幅コストを大幅に削減できるだけでなく、遅延、セキュリティ、プライバシーも向上させることができます。ただし、高価な GPU を組み込んでデバイスコストを抑えるのは容易ではありません。ソフトウェアを使用して長期間にわたってアップグレード可能な、拡張性と堅牢性に優れたデバイスを手頃な価格で提供するベンダーが勝者となるのです。

もう 1 つの商機として、会議室の高度な AI 機能を使用して、対面での会議の生産性とコラボレーションを向上させることが挙げられます。AI を搭載したデバイスを使用することで、フォローアップ会議のスケジューリング、議事録の作成、翻訳、文字起こしだけでなく、会議のファシリテータの役割も自動化できるため、議論のトピックに関する追加のインサイトが得られます。さらに AI は、会議の有効性や参加者の効果的なコラボレーションに関するインサイトと分析情報を提供して、チームがコラボレーション戦略を継続的に改善できるようにします。こうした進歩によって、従来の会議が動的かつ効率的でインタラクティブなセッションへと変貌し、成果が高まり、イノベーションが促進されます。

脅威：ハイブリッド志向への変化、IT 予算の縮小、セキュリティ

オフィス勤務の再開によってビデオ会議の使用方法が変わる可能性はありますが、勤務環境が変化する中でも、ビデオコミュニケーションは、コミュニケーションとコラボレーションにおける重要な要素であり続けます。多くの従業員はテレワークという柔軟な働き方に慣れており、ワークライフバランスを保ちながら通勤時間を短縮できるのがメリットだと感じています。こうした移行を進める中で、対面とリモートを組み合わせたハイブリッドモデルを採用する企業が増えてきました。このアプローチでは、ラップトップで得られるのと「同等かそれ以上」のビデオコミュニケーション体験を従業員に提供できるビデオ会議室デバイスを会議室に設置する必要があります。そのため、

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

チームの結束を高め、会議を実施し、地理的に分散したハイブリッドワークチームの生産性を確保するには、ビデオ会議ツールが引き続き重要な役割を果たしていくと考えられます。

IT 予算は減少傾向にあり、さらに関税戦争により、特に中国で製造されたハードウェアについては、エンドユーザーのデバイスコストが上昇します。ビデオ会議ベンダーはこの状況に適応する必要があるかもしれませんが、自らのソリューションの価値と費用対効果を示す機会にもなります。Android ベースのソリューションは、展開の容易さ、手頃な価格、柔軟性、シームレスな体験により、広く採用されると予想されます。

市場の見通し

Omdia の『企業のビデオ会議デバイスに関する調査 2024 年（Enterprise Video Conferencing Devices Survey 2024）』によると、ほとんどの組織が、あらゆるタイプの会議室にビデオ機能を拡張したいと考えています。ユーザー体験の拡大と向上に関するこうした意欲が市場の継続的な成長につながります。会議室の定期的な刷新の取り組みも市場活動を活性化させます。これらのソリューションを展開している主要なセクターには、政府機関、金融機関、教育機関、テクノロジー企業があり、ハイブリッドまたはフルタイムのオフィス勤務の従業員によって広く利用されています。

ビデオ会議市場は比較的成熟しているものの、新しいソリューションとテクノロジーの登場で断続的に回復しています。この 2 年間で、発言者追跡、自動フレーミング、プレゼンター追跡、背景雑音の除去、音声とビデオのゾーンフェンシングなど、AI を活用した機能が次々と登場しました。これらの機能によって会議の公平性が増し、すべての参加者がはっきりと見え、声をしっかり聞き取ることができます。また、コラボレーション会議サービスでは機能強化が行われており、特に文字起こしや自動要約などが、コラボレーション市場に大きな変革をもたらしています。企業はさらに、会議参加者が手動で介入せずに機能するデバイスと、会議での公平性を提供するソリューションを求めています。Omdia は、今後数年間、市場の継続的な成長が見込まれるため、簡素化や最適化といったメリットを提供する製品の成長が止まることはないと予測しています。

Microsoft、シスコ、Zoom などの企業は、会議サービスを通じて会議室関連の予算とプロジェクトを統合する動きを推進し、プラットフォーム主導の会議室体験をさらに強化すると予想されています。このテクノロジーの更新サイクルは顧客の規模によって異なり、一般に大企業は 3 年です。一方、中小企業の更新サイクルは 4 ~ 5 年です。ハイブリッドワークが一般化するにつれて、スマート コラボレーション デバイスの導入も拡大すると予想されます。過去数年間の成長にはばらつきがあったものの、2024 年のビデオ会議市場の収益は前年比 10% 増でした。

2024 年の収益成長率に影響した主な要因は次のとおりです。

- 地域戦争と経済的不安定
- ハイブリッドワーク戦略が不明確
- 価格競争、ベンダーのプロモーション、割引
- プラグアンドプレイのビデオバーやコラボレーションボードは増加したが、高価な専用ソリューションは減少

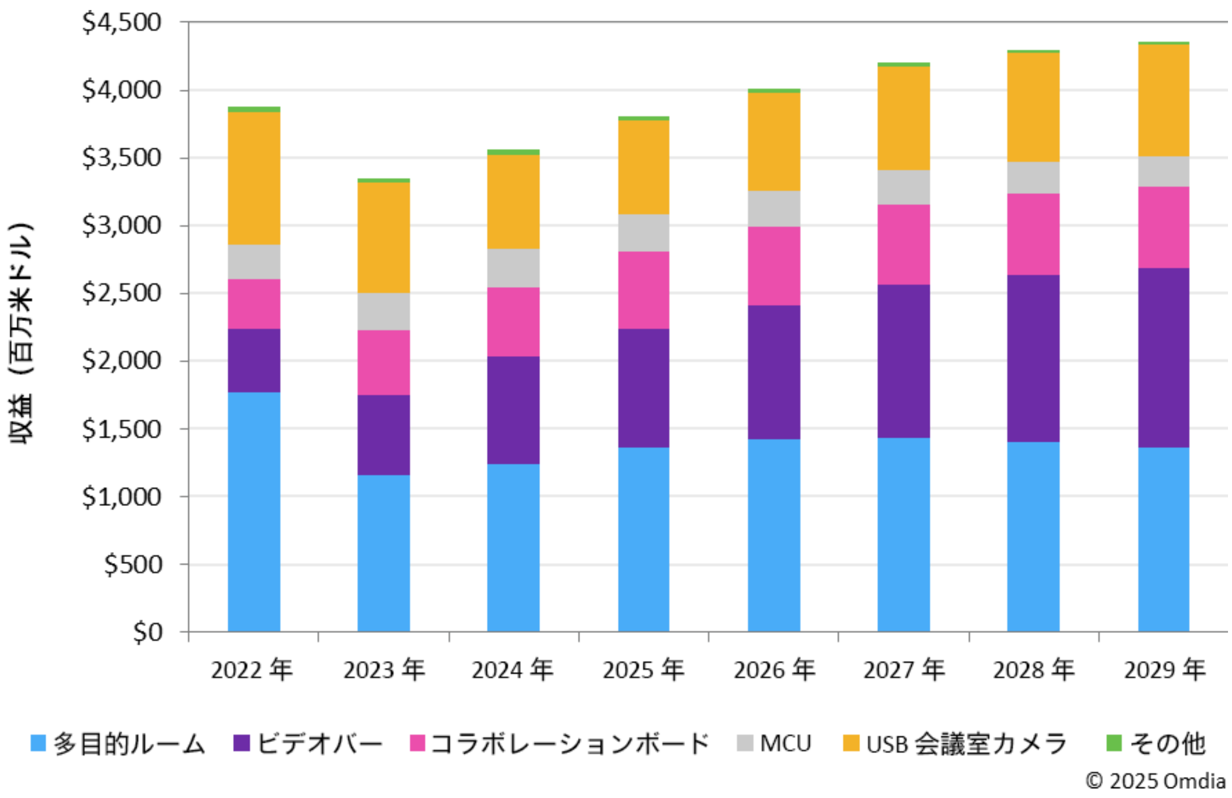
© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

- クラウドベースのサービス導入の増加と柔軟な働き方
- 医療機関（遠隔医療）、教育機関（E ラーニング）、政府機関における新しいビデオユースケース
- MCU からクラウドベースのサービスへの移行に伴い、インフラストラクチャはエンドポイントと比較して収益が低下
- デスクトップおよび USB カメラの収益の低下

2025 年から 2029 年にかけてビデオ会議市場を活性化させる要因は次のとおりです。

- Microsoft の MDEP イニシアチブに基づいて、小規模スペースにビデオを大規模展開
- 大規模会議室のテクノロジーの更新
- 会議室にいるか、ラップトップから参加するかに関係なく、ほぼ同じビデオ品質と画像サイズでハイブリッドワークの体験を強化
- 会議室レイアウトと多機能ルームの進化
- HD ビデオ、AR/VR、帯域幅、AI の進歩により、ユーザー体験を改善
- 遠隔学習、遠隔医療、銀行取引などの業界固有のユースケース

図 5：ビデオ会議デバイスの市場規模と予測



出典：Omdia

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

ベンダーレビュー

AudioCodes（Omdia 評価：チャレンジャー）

AudioCodes は、ユニファイド コミュニケーションおよびコラボレーション（UC&C）で定評のあるベンダーです。ビデオ会議室用ソリューションと、セッション ボーダー コントローラ（SBC）、ゲートウェイ、IP 電話、AI を活用したコンタクトセンター向け機能強化といった補完サービスを提供しています。

AudioCodes が最終候補となるケース

- 組み込みのセキュリティを含め、包括的なインフラストラクチャ ポートフォリオの一部である会議室ソリューションを 1 社から調達したい場合。AudioCodes は、メディア ゲートウェイ、SBC、会議室用デバイス、IP 電話、コンタクト センター ソリューションを提供しており、企業はカスタマイズされた統合ソリューションを導入できます。AudioCodes のソリューションは、広範なネットワーキング、VoIP 製品、スムーズなデバイス統合機能を備えているため、UC&C のあらゆるニーズに単独で対応できるベンダーを望んでいる企業に最適です。
- 厳格な品質管理標準に準拠し、信頼性とセキュリティに優れた会議室ソリューションを実現しているベンダーの高品質な製品を探している場合。
- 会議のサマリーやインサイトなど、UCaaS プロバイダーとは独立して動作する AI 対応機能を、デバイスベンダーから競争力のある価格で入手したいと考えている場合。
- あらゆる大きさの会議室に対応できるビデオ会議デバイス、IP 電話、会議室スケジューラーを含む、単一の OS 上で動作する Android ベースの統合ポートフォリオを 1 社から調達することで、IT の導入コストとメンテナンスコストを最小限に抑えようと検討している場合。

概要

AudioCodes は、スマート コラボレーション デバイス関連のこの Omdia Universe でチャレンジャー企業に分類され、機能については全体の非加重スコアで 67% を獲得しています。一方、戦略と実行能力に関するスコアは 68% であり、ソリューションの幅広さのスコアは 76% でした。AudioCodes は、多様な UC&C ポートフォリオで定評があり、競争の激しいデバイス市場で際立った存在です。**表 1** に同社のポートフォリオを示しています。

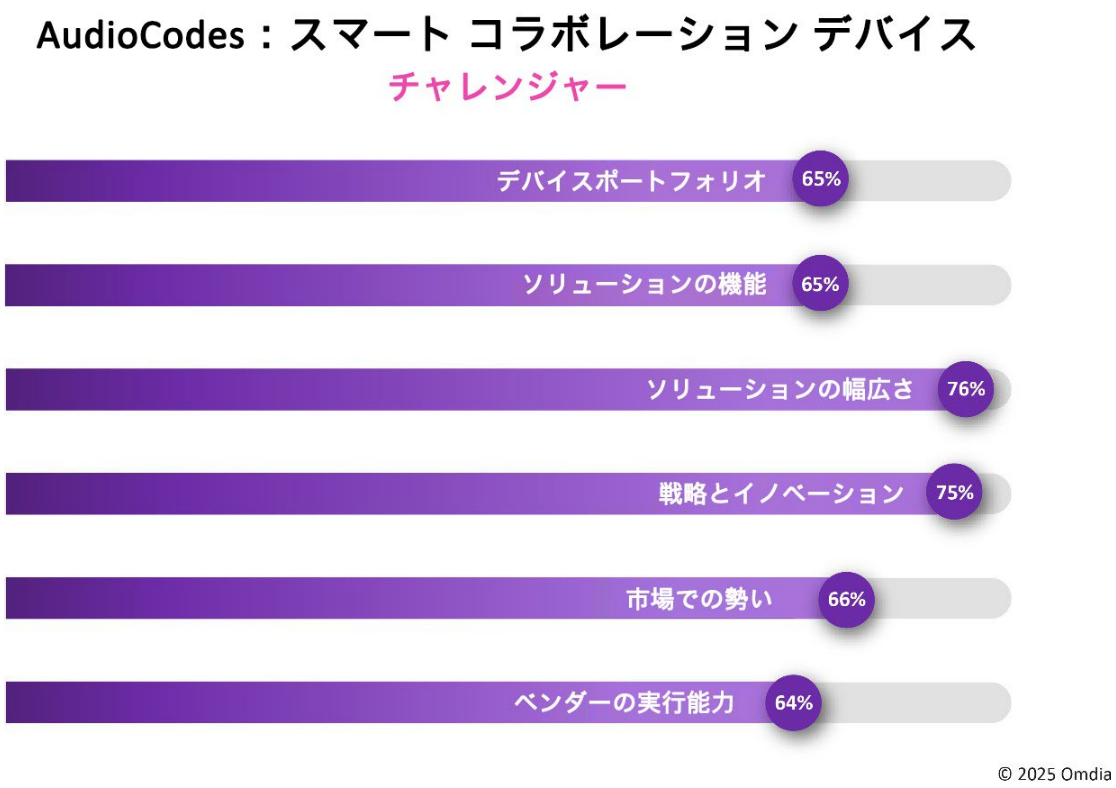
© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

表 1：ポートフォリオ - AudioCodes

デバイス	説明
RXV200	コンピューティング
RXV81	Android ベースのビデオバー
RX-PAD	ルームコントローラ
RX-PANEL	ルームスケジューラー

出典：Omdia

図 6：Omdia Universe の評価 - AudioCodes



出典：Omdia

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

強み

AudioCodes は、単なる会議室ソリューションではない包括的なアプローチを採用しており、競争の激しい UC&C 市場では際立った存在です。会議室を大規模なインフラストラクチャ戦略の重要部分と見なす同社は、顧客の多面的な UC&C ニーズに優れた形で対応しています。Microsoft Teams Rooms 認定デバイス、効率化されたネットワーク接続、SBC、SIP トランキングサービス、IP 電話、AI を活用した高度なコンタクトセンター機能を含む包括的なソリューションの提供に取り組んでおり、戦略とイノベーションの評価で平均スコア 75% を獲得しています。同社は、AI サマリーソリューションも提供しています。このクラウドベースのサービスは、参加者のために会議の内容を要約できます。この機能により、AudioCodes は、デバイスだけでなく付加価値サービスも提供できる市場で唯一のベンダーと位置付けられます。

AudioCodes が他社と一線を画すのは、上記すべての製品とサービスを 1 つにまとめ、顧客の多様なニーズに効果的に対応できる点です。多くの組織は、UC&C ソリューションから ROI を最大化するのに苦労しています。これは、総務、人事、IT、コミュニケーション、プロ AV の各部門に購買担当者が存在するためです。各部門にはそれぞれの予算があり、こうした断片化されたアプローチでは、さまざまなシステムを保守、統合するために大きなコストがかかります。AudioCodes はこの状況を、顧客が UC&C スタックからの ROI を最大化できるようサポートする機会と捉えており、顧客が 1 回の発注で UC&C スタックを構築できるように支援しています。ユーザー数が 3,000 ~ 10,000 人の組織を対象としていることが、エンタープライズグレードのセキュリティ、拡張性、サポートを提供できる単一ベンダーソリューションの価値を際立たせています。

ルームキット、ビデオバー、USB カメラ、アクセサリ、周辺機器を取り揃えた小・中・大規模会議室向けの同社の会議室ポートフォリオは、この Universe で 65% のスコアをマークしました。この幅広いポートフォリオは、複数のベンダーを管理する複雑な作業をすることなく、さまざまな環境へのビデオ機能の拡張を検討している組織には不可欠です。AudioCodes は、Microsoft Teams との統合と顧客満足度でも 80% を獲得しました。

AudioCodes のもう 1 つの強みは、チャネルおよびテクノロジーパートナーとのコラボレーションです。同社はポートフォリオの不足部分を埋めるためにサードパーティベンダーとの強固な統合を確立しており、迅速な展開を実現しています。さらに、Android 13 との互換性、AI 機能、持続可能性を備えた将来性のあるデバイスを提供する数少ないベンダーの 1 社です。会議室の高度な分析、モニタリング、管理でも、平均を上回るスコアを獲得しました。

AudioCodes は現在、Microsoft Teams Rooms 向けの統一されたセキュアなソリューションを提供するために、すべての Android デバイスで MDEP を採用しています。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

課題

AudioCodes は、ビデオ会議デバイス市場では比較的新しいプレーヤーであるため、それゆえの課題と機会に直面しています。この業界は競争が激しく、大きな市場シェアをいくつかの大手ベンダーが占めているため、新参企業が存在感を確立するのは容易なことではありません。重視すべき課題は、同社が主に SBC ベンダーとして認識されている点です。この認識は両刃の剣であり、ビデオデバイス市場における同社の存在感を薄める一方で、独自の優位性も生み出します。AudioCodes の SBC は、Microsoft Teams 電話の公衆電話交換網（PSTN）接続に広く使用されているため、顧客の関連調達部門との間でうまく交渉をまとめることができれば、Microsoft 認定の会議室ソリューションを顧客に提供できるようになります。

Barco（Omdia 評価：チャレンジャー）

Barco は、ワイヤレスのプレゼンテーションおよび会議ソリューションを提供する製品ライン、ClickShare によってビデオ会議市場で戦っています。Barco のソリューションは、他社製品を導入している環境との連携や、既存の VC ルームの補完を念頭に設計されており、会議室の柔軟性が高まります。各スペースにビデオを迅速に拡張することを検討している組織には、Barco のソリューションを推奨します。

Barco が最終候補となるケース

- 組織全体にビデオを効率的かつ一貫性のある形で拡張することが優先事項である場合。
- 会議室のライセンスコスト、コンピューティング、専用の周辺機器、アクセサリなどの不要なコストを最小限に抑える柔軟な会議室ソリューションによって、総所有コスト（TCO）の削減を求めている場合。
- 使いやすさを重視しており、ユーザーがラップトップから簡単に会議に参加できる必要がある場合。
- ビデオ会議の設備がまだない中小規模の会議室に BYOD を簡単に展開する必要がある場合。
- IT チームが Barco の管理ポータルで多数の BYOD ルームを管理できるソリューションが必要な場合。

概要

Omdia Universe レポートでは、Barco を強力なチャレンジャー企業として位置付けています。従来型のビデオ会議ベンダーには分類されませんが、シンプルでセキュアなワイヤレス会議ソリューションを通じて BYOD から大規模会議室までのあらゆるスペースに対応できるという、Barco のソリューションの強みである柔軟性が、この Universe で評価されました。定評のあるレガシープレーヤーによって支配されているカテゴリで、間接的であれ戦えていることを考えると、これは素晴らしい実績です。全体の非加重スコアは、機能が 66%、戦略と実行能力が 76%、ソリュー

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

ションの幅広さのスコアは 76% でした。高度に差別化されたポートフォリオを維持し、アライアンスパートナーと連携するという戦略によって市場への複数のルートを獲得し、競合他社よりも速く成長しています。もう 1 つの推進要因として、Microsoft との強力なパートナーシップがあります。このパートナーシップにより、BYOD モードで Microsoft Teams 会議を実施する ClickShare アライアンスプログラム認定ソリューションを提供できるようになりました。さらに、Barco 対応の BYOD ルームは、Microsoft Pro 管理ポータルでモニタリングと管理ができるため、IT チームにとって便利です。Barco は Microsoft の MDEP イニシアチブにも参加しています。**表 1** に同社のポートフォリオを示しています。

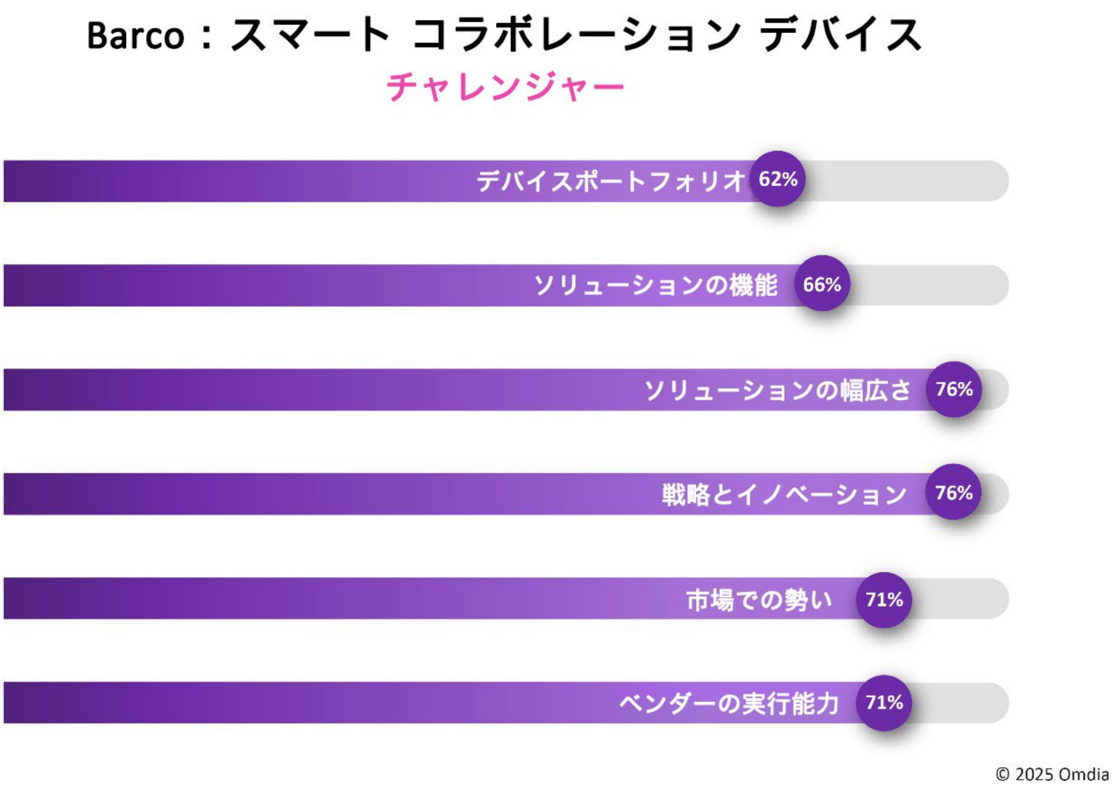
表 1：ポートフォリオ - Barco

デバイス	説明
ClickShare Conference CX シリーズ	ハイブリッド会議向けのこのワイヤレスビデオ会議システムは、ラップトップを会議室の音声およびビデオ機器に接続します。
ClickShare ボタン	会議室の機器に素早く接続するためのラップトップ用プラグインデバイスです。
ClickShare モバイルアプリ	このモバイルアプリを使用すると、スマートフォンまたはタブレットからコンテンツを共有できます。ワイヤレスでコンテンツを表示したり、自身のデバイスで会議室のディスプレイを見たり、スナップショットを撮ったりすることができます。
ClickShare（デスクトップ）アプリ	ラップトップからワイヤレスで簡単にビデオ会議とコンテンツ共有ができます。また、会議室のディスプレイや AV 機器への自動接続、高度な共有オプション、スマート会議フローの機能もあります。
ClickShare Video Bar シリーズ	ワイヤレス会議機能を内蔵したこれらのオールインワンデバイスは、小さい会議室やハドルスペース向けに設計されており、ハイブリッド会議で鮮明な映像とクリアな音声を実現します。

出典：Omdia

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

図 7：Omdia Universe の評価 - Barco



出典：Omdia

強み：イノベーションと協力的なパートナーシップ

Barco は、中小規模の会議スペースで最高のスコアを示しており、サブカテゴリスコアでは 88% を獲得しています。Omdia の最近のアンケート調査によると、こうした環境には大きな市場ニーズがあり、企業は高額なコストをかけたり、会議室を改装したりすることなくビデオ機能を拡張したいと考えています。ClickShare CX-20 および CX-30 はコンパクトで使いやすいワイヤレスソリューションであり、迅速なセットアップ、シームレスな接続、強力なセキュリティが特長です。また、ClickShare アライアンスパートナーのさまざまな音声およびビデオシステムと連携します。ClickShare Bar は、ビデオ会議設備のない中規模会議室への BYOD 展開を簡素化します。

Barco は、コラボレーション会議サービスプラットフォームのサポートのスコアで 2 番目に高い 87% をマークしました。ClickShare は、Microsoft Teams、Zoom、Google Meet、Cisco Webex、RingCentral、Tencent、DingTalk など、主要な会議プラットフォームすべてと互換性があります。ラップトップのブランド、OS、周辺機器に関係なく、中立性を維持します。ClickShare デスクトップアプリと ClickShare ボタンは Apple の macOS に対応しており、ClickShare モバイルアプリは Windows と iOS に対応しています。ユーザーは、会議室の音声機器やビデオ機器を BYOD モードで使用することで、好みのコラボレーション アプリケーションを使用してラップトップからハイブリッド会議を開始できます。Barco のアライアンス パートナー プログラムは、ClickShare デバイス

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

が認定サードパーティの音声およびビデオ周辺機器で動作することを示します。検証は Barco 社内のテストとアライアンスパートナーによる評価に基づいて行われ、結果は四半期ごとに更新されます。業界の 75 社を超える企業が同プログラムに参加しています。この製品ラインは、独自の Linux ベース OS で実行され、機能強化、バグ修正、セキュリティ確保のため、四半期ごとにファームウェアを更新しています。同社は、今後のソリューションをすべて MDEP で開発する予定です。また、顧客のブランディングに合わせてカスタマイズ可能な壁紙やデジタルサイネージも提供しています。

最後に、Barco はイノベーションのサブカテゴリで優れており、80% のスコアをマークしています。Omdia はこの点を高く評価しています。競争の激しい市場に参入した当時、同社には主に次の課題があったためです。

- 1）ラップトップではなく、専用の会議室ソリューションが選ばれているのはなぜか
- 2）多額の投資を行うことなく会議のセキュリティをいかに確保するか
- 3）ビデオ会議でシームレスな相互運用性をいかに実現するか

これらの課題に対応するために、同社は自社製のワイヤレス プレゼンテーション システムを補完するワイヤレス会議ソリューションを開発し、顧客の ROI を高めました。ユーザーは会社の Wi-Fi に接続しなくてもドングルを介して共有や会議を行うことができます。また、アプリから会議に参加することも可能です。Barco は、製品ポートフォリオの改良、顧客の課題への対処、ClickShare Bar などのソリューションの導入、余分な周辺機器の排除、費用対効果の高い拡張の実現に向け投資を続けており、この戦略によって常に業界のトレンドを先取りしています。

Barco は、この分野における製品の品質、設計、使いやすさ、拡張性の面でも平均を上回るスコアを獲得しています。

課題

Barco が会議分野に参入したのは最近で、2025 年時点でのポートフォリオは比較的限定的です。製品コストは類似製品よりも高いように見えるかもしれませんが、製品品質とカスタマーサポートを考慮すれば優勢です。Omdia は、Barco のロードマップを有望視しています。いくつかのイノベーションがリリース予定であり、同社はすでに MDEP にも取り組んでいます。Barco にとって次の段階は、ルームシステムの導入と考えられます。

シスコ（Omdia 評価：リーダー）

シスコは、Webex プラットフォームサービスとハードウェアデバイスを組み合わせて体験を合理化する、AI を活用した魅力的なコラボレーション ポートフォリオを提供しています。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

シスコが最終候補となるケース

- **ビデオの導入拡大に単一ベンダーで対応する必要がある場合。**シスコはさまざまな大きさの会議室に対応した包括的な認定ソリューションを提供することにより、迅速な拡張と規制に配慮したサービスの提供を可能にしています。
- **優れたビデオおよび音声品質を求めている場合。**Omdia の顧客レビューによれば、シスコのビデオ会議ソリューションの品質は高く評価されています。
- **AI ファーストのソリューションを求めている場合。**シスコは NVIDIA GPU を使用して強力な AI 機能と信頼性の高いセキュリティフレームワークを提供しています。
- **ロータッチのメンテナンスを求めている場合。**Cisco Webex Control Hub を使用すると、会議室のデバイスからモニタリング、プロビジョニング、詳細な分析を簡単に行えます。
- **相互運用性が重要な焦点である場合。**従業員があらゆるプラットフォームからオンライン会議に参加できる相互運用ソリューションが必要な場合です。

概要

スマート コラボレーション デバイス関連で初となるこの Omdia Universe レポートで、シスコはリーダー企業として評価されました。「リーダー」に選ばれたのは、すべての評価カテゴリで卓越したパフォーマンスを示したためです。全体の非加重スコアは、機能が 90%、戦略と実行能力が 85%、ソリューションの幅広さは 97% という素晴らしいスコアをマークしています。**表 1** に同社のポートフォリオを示しています。

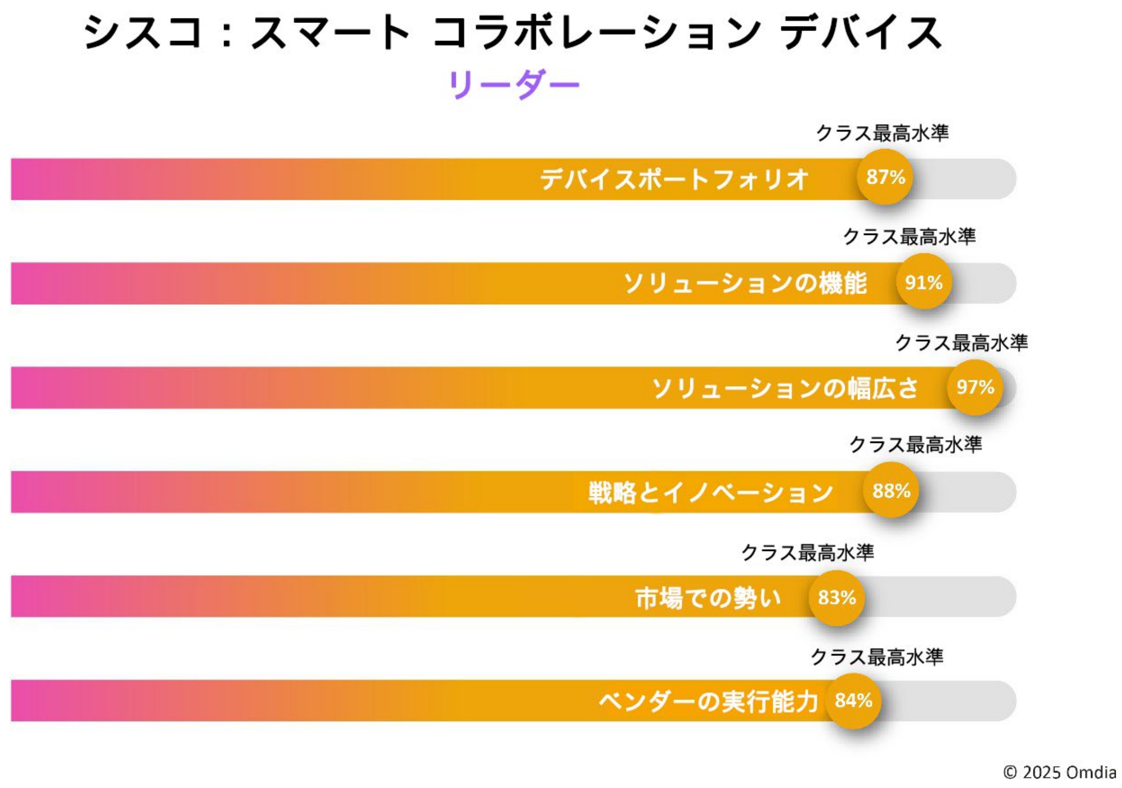
表 1：ポートフォリオ - シスコ

デバイス	説明
Cisco Desk Series	個人のワークスペース向けに設計されたポータブルデバイス
Cisco Board Series	コラボレーションスペース向けのインタラクティブなタッチデバイス
Cisco Room Kit シリーズ	さまざまな大きさの会議室に対応する包括的なビデオ会議ソリューション
Videobar シリーズ	さまざまな大きさの会議室に対応するオールインワンのビデオバー
Cisco SIP Phone	高品質の音声通信を実現する IP ベースの電話機
BYOD デバイス	BYOD セットアップをサポートし、柔軟な勤務環境を実現するデバイス

出典：Omdia

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

図 8：Omdia Universe の評価 - シスコ



出典：Omdia

図 8 が示すように、シスコはトップパフォーマーに認定され、すべてのカテゴリで「クラス最高水準」の評価を獲得しました。同社は、ワークスペース コラボレーションを、ネットワーク、セキュリティ、管理性などの他のソリューションも含めた戦略全体の重要要素と見なしています。このエンドツーエンドの製品とサービスが魅力を高め、同社の価値提案を業界の他のあらゆるベンダーと差別化しています。Omdia の『企業向けユニファイド コミュニケーションおよび音声機器市場調査 - 2024 年第 4 四半期および 2024 年の通期データ、2025 ～ 29 年の予測（Enterprise Unified Communications and Voice Equipment Market Tracker - 4Q24 and CY24 Data and 2025-29 Forecast）』によれば、シスコは 2024 年、シェア 24% でビデオ会議デバイス市場をリードし、収益は前年比 10% 増でした。

強み：AI を活用したポートフォリオで、戦略的アプローチとイノベーションを展開

シスコの最大の強みは、補完的なテクノロジー、ソリューション、プラットフォームとの戦略的な統合によって強化されたポートフォリオにあります。Omdia Universe では、ソリューションの幅広さで 97% のスコアをマークしました。シスコのデバイスは、常時人数カウント、プレゼンス検出、環境測定など、他のベンダーと比較して幅広い統合機能を提供しています。シスコ製および他社製の音声機器と接続することで機能が強化されるほか、会議室の予約やデジタルサイネー

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

ジなど、ワークプレイスの変革に適したさまざまな生産性アプリケーションをサポートしています。Workspace Designer や Control Hub などのツールが Webex エコシステムに組み込まれています。デバイスは Cisco Webex および Microsoft Teams とネイティブに統合すると同時に、拡張 SIP および WebRTC プロトコルによって他のプラットフォームもサポートしています。

シスコの第 2 の強みは、ソリューションの充実です。さまざまなコントロール、展開の容易さ、管理、持続可能性、カスタマイズオプションを提供しています。ソリューションの充実のスコアは 94% でした。デバイスの多くはポータビリティを前提に設計されており、Android 13 との互換性によって将来に備えています。このソリューションにより、管理スタッフは高度な分析機能を利用して会議スペースのモニタリングと管理を容易に行うことができます。

シスコの第 3 の強みは、ソリューションの特長、特に AI 機能であり、サブカテゴリのスコアは 90% でした。自社のデバイスに NVIDIA テクノロジーを組み込むことで、拡張性があり高性能かつセキュアな AI 機能の提供を促進しています。シスコが開発した AI Assistant for Webex Meetings には会議の文字起こし機能があり、アクションアイテムを含む要約を提供できます。その他の AI 機能には、Desk デバイス上の仮想背景、イマーシブシェアによる魅力的なプレゼンテーション、ダイナミック グループ フレーミング、発言者クローズアップ、インテリジェント フレーミングなどがあります。また、高インパクトなスペースには、映画のような没入型環境を提供しています。

全体的な戦略と実行能力

同社のロードマップは有望であり、今後 12 か月でポートフォリオを強化し、不足部分に対処すると見られます。また、シスコデバイスの総所有コストを抑えることを前提とした新しい価格設定と投資保護が行われているため、ソリューションの費用対効果が高く、管理も容易です。シスコは、チャネルパートナーとの緊密なコラボレーション、GTM 戦略の精緻化、デバイスと Microsoft Teams とのシームレスな連携に向けて多大な労力を費やしてきました。さらに、シスコのデバイスは世界中で簡単に調達でき、Cisco Control Hub からプロビジョニング、管理、展開を行えるようになっています。

課題

Omdia の調査によれば、シスコのビデオ コラボレーション ソリューションは、Webex および Microsoft Teams とシームレスに連携するように改良されています。ただし、以前の評価が顧客のイメージに影を落としており、シスコのデバイスは古くて高価なハイエンド製品であり、ライセンス体系と調達プロセスが複雑だと考えている人もいます。シスコからの情報提供によれば、現在、同社のデバイスはチャネルパートナーを通じて競争力のある価格ですぐに入手できます。もう 1 つの課題は、シスコが現在、ネイティブなソリューションを提供するのではなく、マクロやパートナー主導の製品を活用したモジュール型のソリューションのみを提供している点です。ただし、同社によるとこれは製品ロードマップに組み込まれているとのことです。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

Crestron（Omdia 評価：チャレンジャー）

Crestron の会議室ソリューションは AI を活用して会議室体験とビデオ会議を自動化し、企業の役員室、会議室、教室でのユーザー体験を向上させています。中小規模のスペース向けにも柔軟なソリューションを提供しています。

Crestron が最終候補となるケース

- **会議室ソリューションとして包括的なスイートが必要な場合。**Crestron は、コンピューティング、会議用コントローラ、卓上型ソリューション、クラウドベースのモニタリングと管理、高インパクトなスペース向けの高度なビデオ会議システムなど、あらゆる大きさの会議室に対応した幅広い製品を提供しています。
- **特定のカスタマイズ要件がある場合。**Crestron のソリューションは、複雑かつ大規模な高インパクトのスペースに最適です。同社は、エンジニアリングの卓越性と広範なカスタマイズで高い評価を受けています。
- **幅広いカスタマーサービスとサポートが必要な場合。**Crestron は包括的なカスタマーサービスとサポートを世界規模で展開しているため、時と場所を問わず安心感があります。

概要

スマート コラボレーション デバイス関連で初となるこの Omdia Universe で、Crestron はチャレンジャー企業に分類されました。非加重スコアは、機能が 69%、戦略と実行能力が 74%、ソリューションの幅広さのスコアは 74% でした。全体として、Crestron のパフォーマンスは堅調です。同社のシステムは、他のベンダーには難しい強化機能や緊密な統合機能を提供しており、大規模かつ高インパクトなスペース向けでは最高スコアを達成しています。小規模スペースやハドルスペース向けのポートフォリオも強化しており、今後の Omdia Universe レポートではリーダーに格上げされることが予想されます。

表 1：ポートフォリオ - Crestron

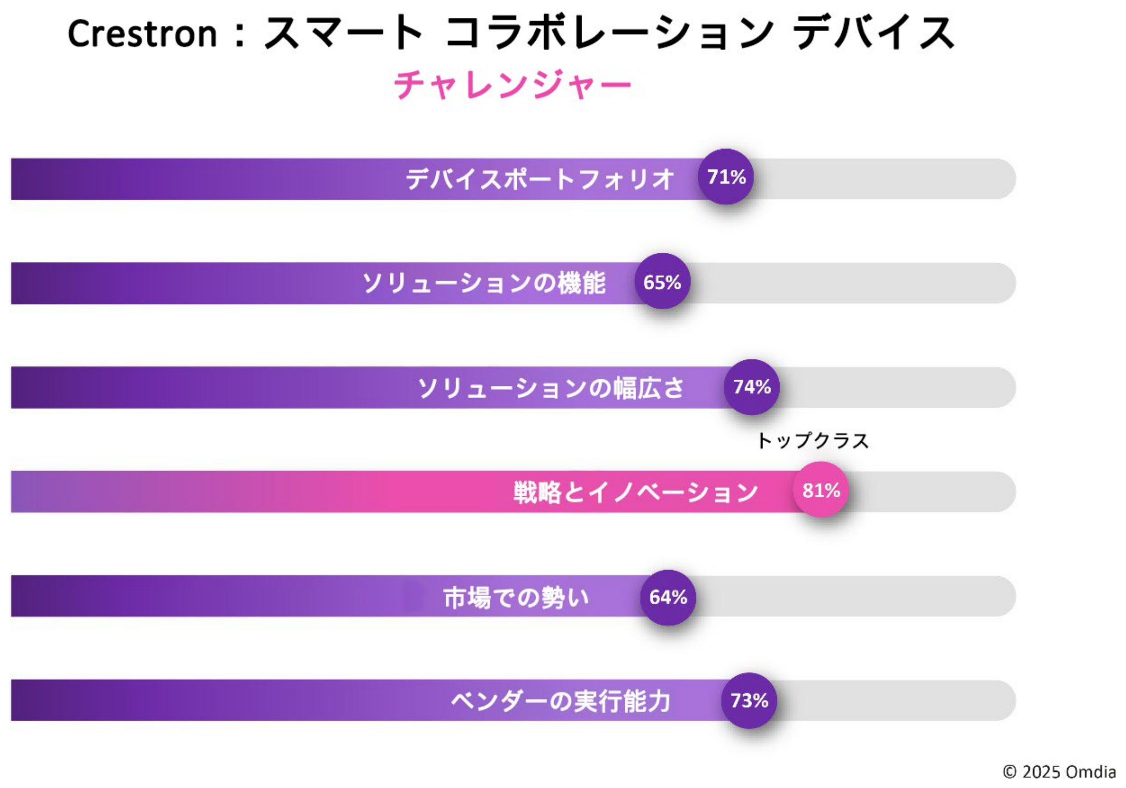
デバイス	説明
Crestron Flex	さまざまな大きさの会議室に対応した包括的なビデオ会議ソリューション。高性能の音声およびビデオ、ビデオ会議へのアクセスのしやすさ、ワイヤレス会議、スマートルーム制御が特長です。
Automate VX システムと 1 Beyond Camera システム	マルチカメラによる発言者追跡ソリューション。会議室の映像を自動的に切り替えて会議の効果を高めます。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

Videobar 70	中規模から大規模の会議室向けに設計されたオールインワンの Android ベースのコラボレーションバー
Crestron M シリーズ	統合された音声およびビデオ機能を備えたビデオ会議向けの卓上型ソリューション
XiO Cloud	クラウドベースのモニタリングおよび管理プラットフォーム。効率的なシステム展開、プロアクティブなモニタリング、変化や問題への迅速な対応、データに基づく会議スペースの最適化を実現します。

出典：Omdia

図 9：Omdia Universe の評価 - Crestron



出典：Omdia

強み

Crestron は、大規模環境と中規模環境の両方で市場シェアを獲得するためにポートフォリオを進化させ、戦略とイノベーションで 81% という素晴らしいスコアをマークしました。高インパクトな会議室のセグメントで確固たる地位を確立した同社は、小規模から中規模の会議室向けにポートフォリオを戦略的に強化し、ワイヤレス会議およびプレゼンテーションのソリューションと Android ベースのオールインワンビデオバーを導入しました。また、プレゼンター追跡や没入型会議向けの自動画面構成といった機能により、ポートフォリオも強化しました。Crestron Flex プラッ

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

トフォームは Jabra や Huddly といったパートナー企業のカメラと統合することで柔軟性を提供します。1 Beyond Camera シリーズは、視覚 AI を使用してグループのフレーミングを最適化します。一方、高インパクトなスペース向けのルームソリューションはルーム制御と緊密に統合されています。Crestron はパートナーシップを活用して市場シェアをさらに拡大しています。オープンなエコシステムを維持することで、チャネルパートナーとこの分野のプロフェッショナルがエンドユーザーのニーズを満たすシステムを開発できます。

この市場で Crestron が他社よりも戦略的に優位な要因の 1 つが高度なコントロールシステムです。このシステムにより、自動化が促進され、ユーザーは 1 つのユニットで AV、照明、空調を直感的に管理できます。この点が評価され、Crestron は大規模かつ複雑なスペースへの展開というサブカテゴリで 97% という素晴らしいスコアを獲得しました。Creston は顧客へのコミットメントを示すために、今後 AI を活用した新しいイノベーションを導入する予定です。

Crestron の第 3 の強みは製品品質であり、80% という高いスコアをマークしました。同社は、会議室用デバイスの優れた品質で広く認められています。音声、ビデオ、照明、シェード、空調を効果的に合理化し、会議体験全体を高める統合テクノロジーの品質が顧客から高く評価されています。Omdia の『企業のビデオ会議デバイスに関する調査 2024 年（Enterprise Video Conferencing Devices Survey 2024）』によると、顧客は会議室製品の信頼性と使いやすさを優先しており、これは Crestron が一貫して提供しているものです。Crestron 製品を活用した企業役員室、会議室、教室で生産性とコラボレーションが大幅に向上しているのは、これが理由です。

課題

Crestron はエンジニアリングに重点を置いているため、製品の展開が難しいと思われがちです。しかし、同社は Videobar 70、サウンドバー、マイクポッド、Crestron Flex ユニットなど、すぐに使用できるデバイスを着実に発表してきています。Omdia は、同社の最大の課題が最大の強みでもあると考えています。SI による展開サポートが必要なソリューションの場合、同社は広範なパートナーエコシステムを活用して市場に効果的に参入しています。このアプローチにより、顧客に合わせた高品質な設置作業が行われるため、顧客の従業員体験と生産性を向上させることができます。さらに、この戦略によって、同社がポートフォリオの改善を続けている中小規模スペース向けソリューションを既存の顧客にクロスセルする機会が生まれます。

HP Poly（Omdia 評価：リーダー）

HP Poly は、ハイブリッドワーク向けの高品質のミーティングルームとグローバル コラボレーション ソリューションの包括的なポートフォリオを提供しています。ソリューションの価格帯は幅広く、さまざまな業種への訴求力を持ちます。デバイスは AI を活用したビデオと音声を搭載し、一元管理が可能です。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

HP Poly が最終候補となるケース

- **使いやすい革新的なテクノロジーを重視している場合。**簡単にセットアップして使用できる高度な音声およびビデオソリューションを提供しています。
- **ニーズが多様なため、幅広いオプションが必要な場合。**HP Poly は、ヘッドセットやビデオ会議システムなど、グループおよび個人向けのコラボレーションツール一式をポートフォリオとして取り揃え、高品質の体験を常に提供しています。
- さまざまな会議サービスとの互換性のために認定デバイスが必要な場合。
- **世界各地でソリューションを入手できる必要がある場合。**HP Poly は、ソリューションとプロフェッショナルサービスを広範に提供しているため、大規模な医療機関、テクノロジー企業、教育機関、金融機関に最適なパートナーです。
- **品質を重視する場合。**HP Poly は高性能で信頼性の高い製品を提供しています。

概要

HP Poly は、スマート コラボレーション デバイス関連のこの Omdia Universe でリーダー企業として認められました。非加重の機能スコアは 80%、戦略と実行能力のスコアは 80% です。ソリューションの幅広さでは、88% のスコアをマークしました。HP Poly は、Windows および Android プラットフォーム、SIP/H323 エンドポイント、ビデオバー、およびヘッドセットや Web カメラなどの個人利用向けコラボレーション ツールに基づくソリューションを提供しており、ポートフォリオの幅広さは注目に値します。イノベーションの最前線に立つ HP Poly は、9 つのうち 5 つのサブカテゴリで高いスコアを獲得しています。さらに、他のサブカテゴリでも非常に安定したパフォーマンスを示し、平均点以上をマークしました。

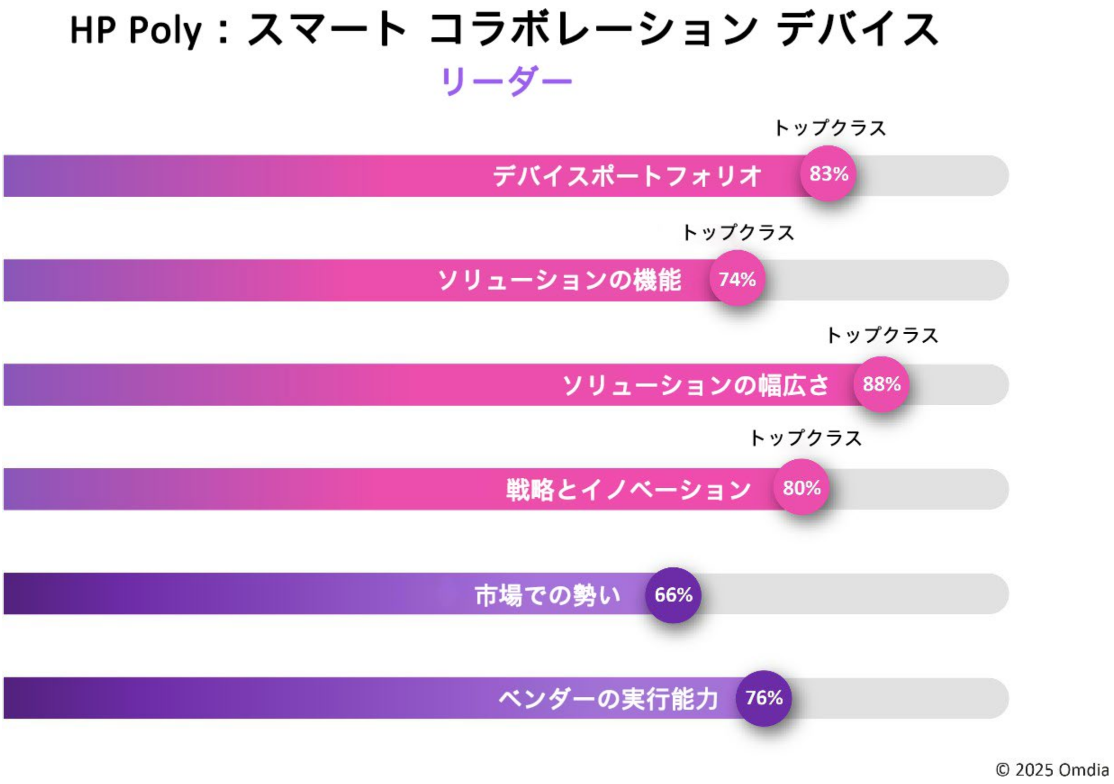
表 1：ポートフォリオ - HP Poly

デバイス	説明
Poly Studio X シリーズ	会議ソフトウェアを内蔵した、さまざまな大きさの会議室に対応するオールインワンのビデオバー
Poly G シリーズ	サードパーティのコンポーネントに接続する、大規模会議室向けモジュラーシステム
Poly Studio P シリーズ	プロ品質の音声とビデオを実現する個人デバイス
Poly Trio シリーズ	会議室向けの高度な音声ソリューション
Poly Studio USB シリーズ	プラグアンドプレイの USB ビデオ会議ソリューション
Poly Studio ベースキット	AI を活用した音声およびビデオテクノロジーによる PC ベースのソリューション
Poly のカメラとアクセサリ	カメラ、カート、マイク、タッチスクリーンなどの機能拡張

出典：Omdia

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

図 10：Omdia Universe の評価 - HP Poly



出典：Omdia

強み

HP Poly はその幅広い包括的な製品ポートフォリオで認められ、このカテゴリで 83% のスコアをマークしました。それが HP Poly の最大の強みであり、競争の激しいこの市場で独自の地位を確立しています。同社は顧客の好みに応じて、Windows、Android、SIP/H323、USB ベースのソリューションを含め、あらゆる大きさの会議室向けのソリューションを提供しています。音声およびルーム制御のサードパーティプロバイダーと連携して大規模なモジュール型の会議室向けのソリューションを提供していることから、HP Poly はこの調査で最高の評価を獲得しました。同社は、HP Mini IP Conferencing PC（Windows）または Poly G7500 と X72 プレミアムバーまたは E70 カメラを組み合わせて、これらの会議室向けの Windows および Android ソリューションを提供しています。

HP Poly のもう 1 つの大きな強みは、モニタリング機能と管理機能（サブカテゴリ）であり、91% のスコアをマークしています。同社は、ワークプレイス体験の最適化に不可欠な、Poly デバイスのインサイトと管理を提供するクラウドベースのソリューション、Poly Lens を提供しています。Poly Lens を HP の管理プラットフォームである WXP と統合し、企業内にある広範な HP ポートフォリオのプロビジョニング、モニタリング、管理を行うことができます。さらに、Vyopta を買収したことで、複数の UC プラットフォームとさまざまなベンダーのコラボレーションデバイスを使用している多様な顧客基盤に、カスタマイズしたモニタリングおよび管理ソリューションを提供す

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

る能力が向上しました。包括的なモニタリング、管理、プロビジョニングを行えるこの一貫したプラットフォームは、HP Poly にとって重要な強みです。

HP Poly は、イノベーションにおいても平均以上のスコアをマークしました。同社は自社を、業界の一般的な開発動向に追随して類似製品を提供する企業ではなく、競争優位性と差別化につながる製品を提供する企業と位置付けており、そうした姿勢が評価されたものです。HP Poly の戦略的方向性の 1 つが Project Starline であり、Google と Zoom にハードウェアソリューションを提供しています。

課題

Omdia は、HP による Poly 買収後の統合と再編によって、運用と戦略の調整が一時的に中断し、2021 年以降、市場での成長が限定的になったと考えています。HP Poly のもう 1 つの課題は、ポートフォリオにコラボレーションボードが唯一欠けていることです。ただし、同社はディスプレイベースの製品を開発するのではなく、他のディスプレイプロバイダーとの提携を優先しています。これまで、HP Poly はチャネル戦略の進化に重点を置いていませんでしたが、現在はチャネル主導の販売に重点を置き、ブランドイメージの転換に取り組むことでこれらの問題に対応し、課題の克服と顧客基盤の拡大を目指しています。

Jabra（Omdia 評価：チャレンジャー）

Jabra は 2019 年にビデオ会議市場に参入して以来、グループと個人のコラボレーションを実現するために優れた設計の AI 拡張ソリューションをいくつも提供してきました。これらのソリューションは、クラウドベースのモニタリングおよび管理システムによってさらに強化されています。

Jabra が最終候補となるケース

- **利用可能なスペースを最大限に活用したい場合。**Jabra のビデオ会議カメラ（特に PanaCast シリーズ）は、業界最高レベルの 180 度の視野角を誇ります。この広い視野角によって、単一のカメラシステムで会議室の大部分をカバーすることができ、すべての参加者が画面に収まります。
- **音質が最優先の場合。**Jabra は優れた音質ソリューションで有名です。鮮明でクリアな通話を実現する HD 音声や、背景雑音を除去する高度なノイズキャンセリング技術などの機能を備えています。
- **ハイブリッドワーク環境のサポートが主な目的の場合。**Jabra のソリューションは BYOD ルームや中小規模のスペースに適しています。エンタープライズグレードのヘッドセットや Web カメラをはじめとする個人利用向けコラボレーションツールが、同社の価値提案全般をさらに高めています。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

概要

スマート コラボレーション デバイス関連のこの Omdia Universe で、Jabra はチャレンジャー企業に分類されました。全体の非加重スコアは、機能が 66%、戦略と実行能力が 73% 、ソリューションの幅広さのスコアは 76% でした。この調査では、優れた音声品質とビデオ品質に加え、BYOD、Windows ベースのルームシステム、Android ベースのビデオバーという、中小規模会議室向けのバランスのとれたポートフォリオが評価されています。Jabra はビデオ会議分野では比較的新しいプレーヤーであり、2019 年の PanaCast 買収以降の進歩を Omdia は評価しています。**表 1** に同社のポートフォリオを示しています。

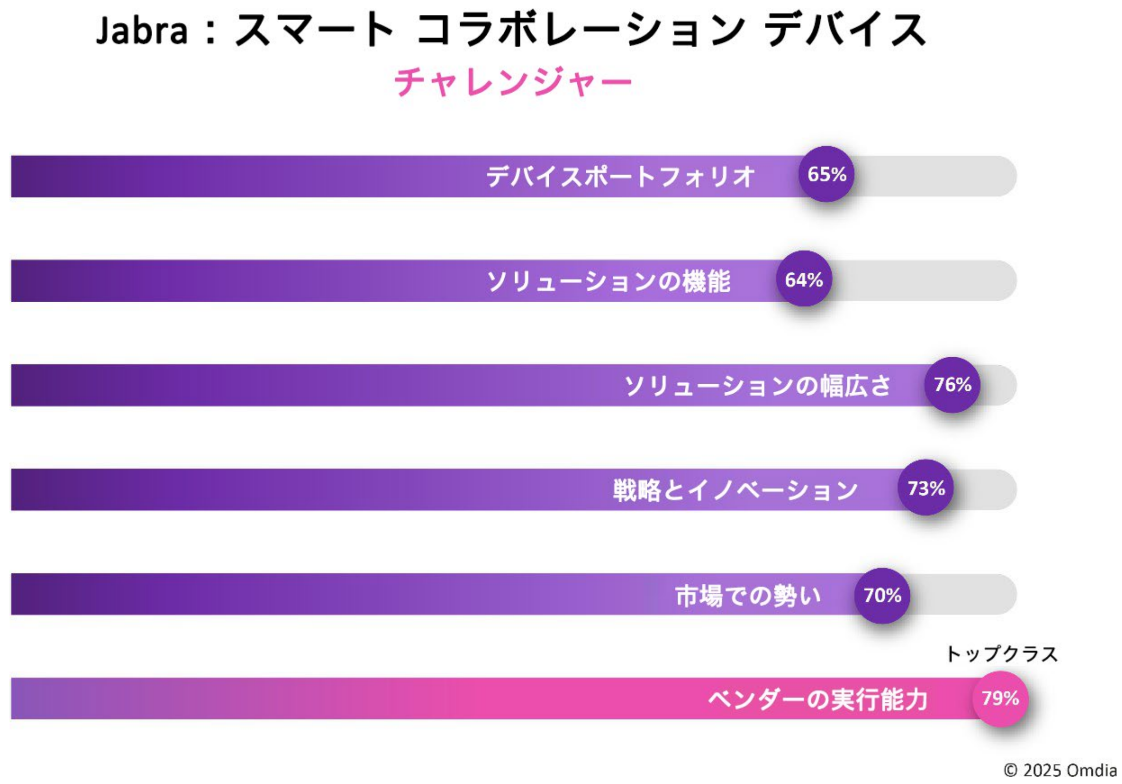
表 1：ポートフォリオ - Jabra

デバイス	説明
PanaCast 50 VBS	AI 拡張とオンボード Android コンピューティングを備えたオールインワンのビデオバールームシステム
PanaCast 50 Room System	ハイブリッドチーム向けに設計された Windows ベースの包括的なルームシステム
PanaCast 50	インテリジェントな USB 会議室カメラ
Jabra+	クラウドベースのデバイスモニタリングおよび管理ソリューション。単独で、または Microsoft Pro 管理ポータルや Zoom デバイス管理ツールなどのプラットフォームと連携して動作します。
PanaCast 40 VBS	新しく発表された小規模会議室向け Android ベースビデオバー（発売予定）
他の補完的ソリューション	ヘッドセット、Web カメラ、アクセサリ、スピーカーフォン

出典：Omdia

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

図 11：Omdia Universe の評価 - Jabra



出典：Omdia

強み

Jabra は小規模会議室と中規模スペースのサブカテゴリで優れた実績を持ち、92% のスコアをマークしています。BYOD サブカテゴリでも優れており、スコアは 90% です。これらの分野のソリューションは、高度な音声およびビデオテクノロジー、インテリジェントな AI 機能、使いやすい設計により、魅力的なものとなっています。Jabra はプロフェッショナル オーディオのリーダー企業として、適応力の高い HD サウンドを提供し、クリアなコミュニケーションを実現しています。また、ソフトウェア アップデートとファームウェア アップグレードを継続的にリリースすることで顧客に価値を提供し、プラットフォーム主導の新しい機能にもハードウェアの変更は不要です。Jabra のソリューションは Zoom と Microsoft の認定を取得しており、互換性が高く、統合も容易です。

さらに、Jabra はベンダーの実行能力のカテゴリでも優れており、最高スコア 79% を獲得しています。また、顧客体験、パートナーシップ、エコシステム、製品品質でも優れています。これらの領域のスコアは平均を上回っており、一流ベンダーかつエコシステムプレーヤーとしての地位を確立するために、同社が戦略的に取り組んできたことを表しています。Crestron や Lenovo などのベンダーとのパートナーシップによって、同社の地位はさらに強化されています。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

3 番目の主要なスコアは戦略とイノベーションで、73% でした。コラボレーション ポートフォリオの多様で強力な機能セットが示すように、同社では迅速なイノベーションが行われています。さらに、拡大を続ける BYOD および小規模スペースセグメントで市場シェアを獲得するために新製品を投入する予定です。最近発表された PanaCast 40 VBS ソリューションは、小規模スペース向けの唯一の Android バーとして際立った存在であり、独自の 180 度視野角と優れた音声機能で会議室全体をキャプチャします。さらに、同システムはビデオと音声が非常に明瞭なため、会議の公平性が向上します。また、迅速なセットアップに対応しているため、設置前でもデバイスのプロビジョニングが可能です。

課題

Jabra のビデオ会議ポートフォリオは急速に進化していますが、大規模会議室や高インパクトなスペースなどでは、いくぶん弱さが見られます。また、BYOD ルームや中小規模スペースの市場における潜在的な企業顧客に効果的にアプローチするために、製品の市場認知度を高め、包括的なチャネル戦略を策定することも必要です。

Lenovo（Omdia 評価：チャレンジャー）

Lenovo は、Windows ベースのビデオ会議ソリューションの包括的なポートフォリオを提供しています。同社のポートフォリオは、特に Microsoft Teams および Zoom 環境で制御を強化しなければならない展開に適しています。同社は、コンピューティング、カメラ、コントローラを含む統合ルームキットをすべて 1 社で提供しています。

Lenovo が最終候補となるケース

- **柔軟なルームキットが必要な場合。**Lenovo が提供する ThinkSmart Core + Controller Kit などのモジュール型ソリューションには、任意の USB カメラ、マイク、スピーカーを組み合わせることができます。
- **強力な市場プレゼンスを重視する場合。**Lenovo という確立されたブランド名、多様な製品群、革新的なテクノロジー、信頼性の高い性能は、世界中の多くの企業にとって好ましい選択肢です。
- **包括的なサポートを求めている場合。**Lenovo は、展開、管理、およびプレミアサポートを提供しています。プロジェクト管理では、設計サービスとアクセスサービスも利用できます。
- **Windows ベースの展開を重視している場合。**Android ベースのソリューションが急増していますが、柔軟性、セキュリティ、管理が強力という点で、依然として多くの企業が Windows ベースのソリューションを選択しています。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

概要

ビデオ コラボレーション デバイス関連で初となるこの Omdia Universe で、Lenovo はチャレンジャー企業に分類されました。機能は 67%、戦略と実行能力は 72%、ソリューションの幅広さのスコアは 79% をマークしています。Lenovo は、包括的なルームキットと、Microsoft Teams および Zoom Rooms 向けのスタンドアロン コンピューティングを提供する数少ないベンダーの 1 社であり、市場で独自の地位を確立しています。そのため、Logitech や Jabra をはじめとする多くの USB カメラベンダーは、Lenovo と提携して、さまざまな大きさの会議室に対応した包括的な会議室バンドルを提供しています。**表 1** に同社のポートフォリオを示しています。

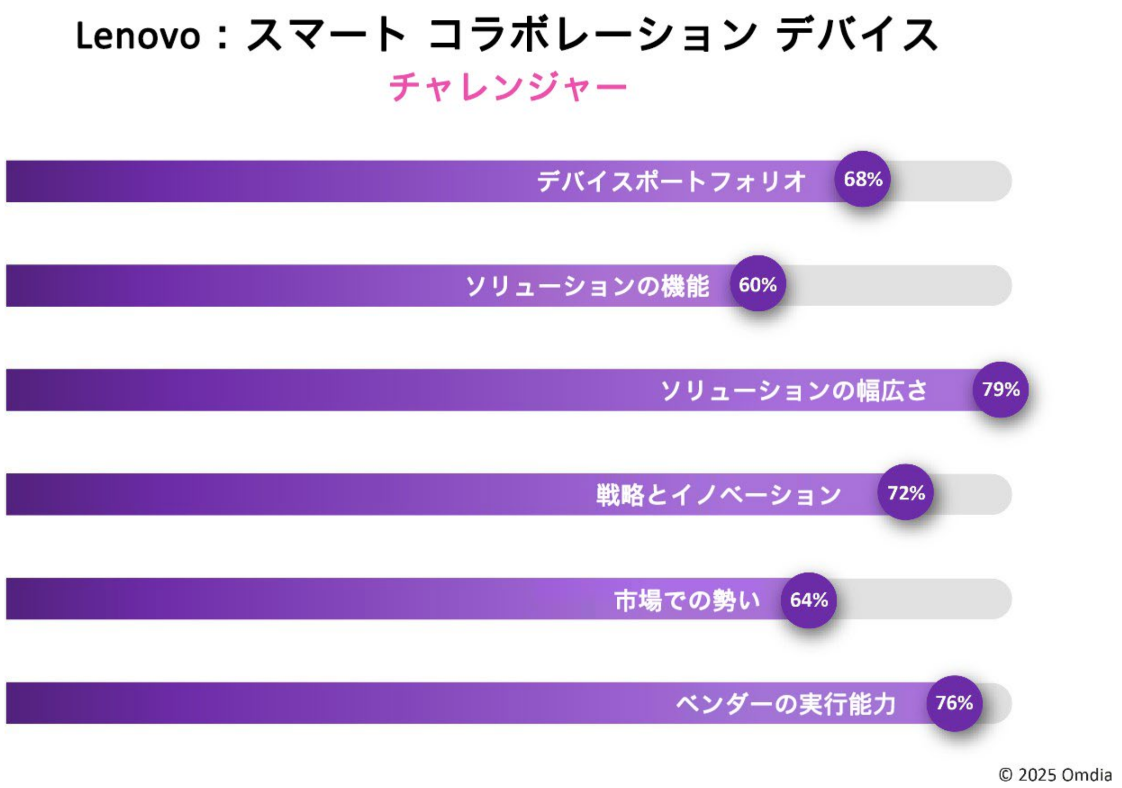
表 1：ポートフォリオ - Lenovo

デバイス	説明
ThinkSmart Core	インテル Core vPro プロセッサと Windows をベースしたコンピューティング
Lenovo IP Controller	タッチで会議を制御できる卓上型制御ユニット
ThinkSmart Bar	中規模から大規模の会議室向けの USB カメラとサウンドバー
Lenovo ThinkSmart View Plus	取り外し可能な 4K カメラと高品質サウンドバーを備えた、オールインワンのデスクトップソリューション
ThinkSmart One	Windows ベースのオールインワン コラボレーション バー。 中小規模の会議室向けに設計された ThinkSmart One は、Windows 10 IoT Enterprise を実行し、第 11 世代インテル® Core™ プロセッサを搭載しています。
ThinkSmart Manager	ThinkSmart デバイス群をリモートで管理し、保護します。

出典：Omdia

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

図 12：Omdia Universe の評価 - Lenovo



出典：Omdia

強み

Lenovo の最大の強みはソリューションの幅広さのカテゴリであり、平均を上回るスコア（79%）をマークしました。これは、AI を活用した幅広いサービスをさまざまな大きさの会議室向けに提供している点が評価されたものです。多様なポートフォリオによって、小規模から大規模のスペース、そして高インパクトなスペースにソリューションを提供しています。

同社は戦略とイノベーションでも 72% を獲得しており、今回の Universe でチャレンジャー企業としての地位を確立しました。Lenovo は、会議室向けに最適化されたコンピューティングを提供していることで有名であり、このコンピューティングと USB カメラなどの周辺機器を組み合わせてルームシステムを構築することも可能です。同社は最近、Lenovo ThinkSmart Core Gen 2 を発表しました。これは、ビデオ会議ルームシステムを実行するために構築された初の AI 最適化コンピューティングデバイスの 1 つです。NPU 内蔵のインテル® Core™ Ultra プロセッサを搭載した ThinkSmart Core Gen 2 は、AI を多用する会議室のワークロードに対応しており、優れた直感的なコラボレーションと生産性向上を実現します。すぐに展開できるように、使いやすいユニットにまとめられています。

Lenovo は、幅広いプロフェッショナルサービス、充実したサポート、リモート管理機能を特長としており、これらが競合他社との差別化要因となっています。同社は、Windows ベースのルームキットとオールインワンのビデオバーの専門技術でも、他社より優れています。こうしたデバイ

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

スを市場に提供しているベンダーは Lenovo だけです。社内システムを Windows で標準化し、Windows ベースのコンピューティングによる高度な管理性とセキュリティを求める企業には、Windows ベースのソリューションが好まれています。同社のシステムは、信頼性、柔軟性、セキュリティでも知られています。

Lenovo は、ベンダーの実行能力のカテゴリで 76% のスコアを獲得しました。製品バンドルや補完的なソリューションの構築に寄与したプラットフォーム プロバイダーやその他のハードウェアベンダーとの戦略的パートナーシップが、評価要因の 1 つでした。

課題

コンピューティング市場における Lenovo の優位性には利点と欠点があります。多くの企業は、すべてのエンドユーザーデバイスを単一ベンダーから調達したいと考えています。そのため、多角化により、同社は大手顧客に対してクロスセルを行うことができます。ただし、ラップトップや PC に対する評価が高いため、ビデオ会議製品の影が薄くなってしまう可能性があります。同社は会議室ソリューションのマーケティングにあまり積極的ではなく、これが認知度の低さにつながっていると考えられます。それでも Lenovo は成長しており、今後 2 年間で市場シェアは拡大すると見込まれます。

Logitech（Omdia 評価：リーダー）

Logitech は最も広範なポートフォリオを持つベンダーの 1 社であり、会議室および個人利用向けコラボレーションの認定ソリューションを手頃な価格で提供するほか、クラウドベースのモニタリングおよび管理ソリューションである Logitech Sync でポートフォリオの強化を図っています。

Logitech が最終候補となるケース

- **市場で常にリーダーシップを発揮するポートフォリオが必要な場合。**Logitech は、コラボレーション ポートフォリオ、迅速なイノベーション、堅牢な競争戦略の構築により、B2B 市場での地位を大幅に強化しました。
- **グローバルな可用性とサポート体制が必要な場合。**Logitech は、さまざまな地域で幅広く製品を展開し、24 時間 365 日の信頼できるカスタマーサポートシステムを提供しています。
- **持続可能性を優先する場合。**Logitech は、持続可能なソリューションの提供で卓越しており、この Omdia Universe では持続可能性で 1 位を獲得しています。
- **将来を見据えたテクノロジーを求めている場合。**Logitech のコラボレーション ソリューションは高度な AI 機能を搭載しており、コミュニケーションニーズが進化する中でも、適合性と実用性を確保できるようになっています。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

概要

ビデオ会議デバイスに関するこの 2025 年 Omdia Universe レポートで、Logitech はリーダー企業として評価されました。「リーダー」に選ばれたのは、すべての評価カテゴリで高いパフォーマンスを示したためです。全体の非加重スコアは、機能が 78%、戦略とイノベーションが 80%、ソリューションの幅広さのスコアは 88% という素晴らしいスコアをマークしています。同社は、Logitech for Business の社長として新たに Prakash Arunkundrum 氏を迎え、B2B 部門の取り組みを強化しました。製品イノベーション、売上拡大、テクノロジー パートナーシップ、持続可能性への重点的な取り組みによって、成長を加速させています。Omdia の『企業向けユニファイド コミュニケーションおよび音声機器市場調査 - 2024 年第 4 四半期および 2024 年の通期データ、2025 ～ 29 年の予測（Enterprise Unified Communications and Voice Equipment Market Tracker - 4Q24 and CY24 Data and 2025-29 Forecast）』によれば、Logitech はビデオ会議分野の有力ベンダーの 1 社であり、2025 年の市場シェアは 12%、収益は前年比 5% 増でした。**表 1** に同社のポートフォリオを示しています。

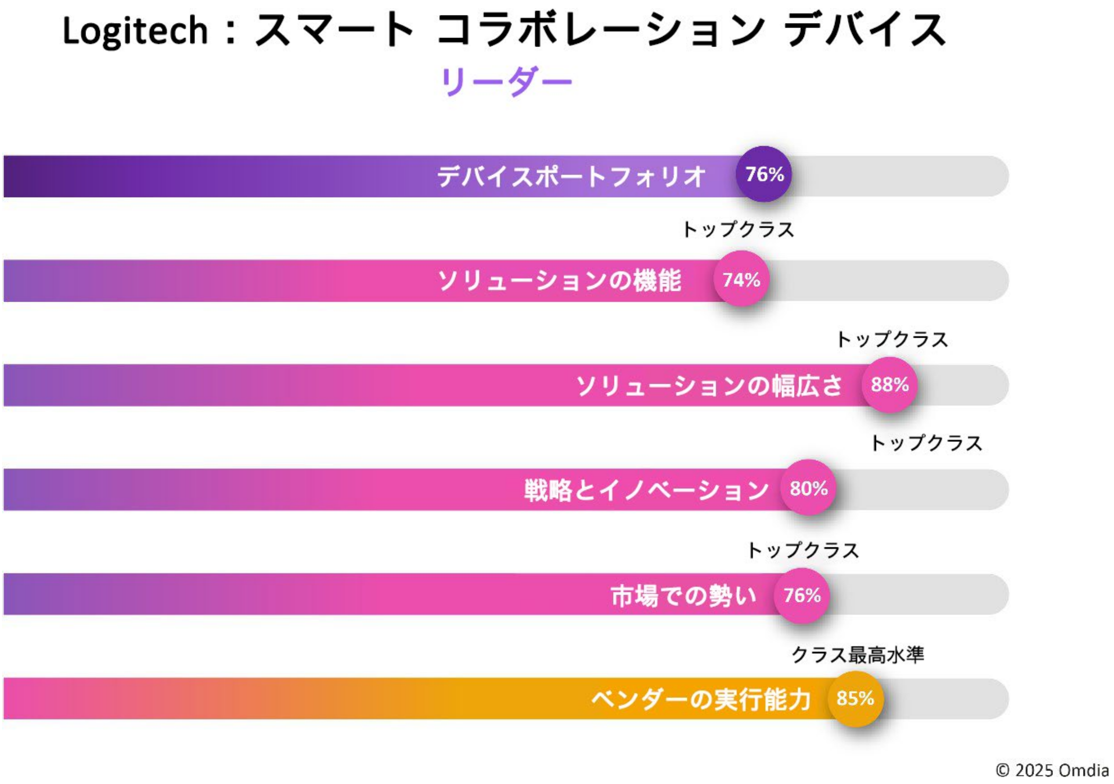
表 1：ポートフォリオ - Logitech

デバイス	説明
Rally シリーズ	高度な音声およびビデオ機能を搭載した、さまざまな大きさの会議室に対応するオールインワンのビデオバーとモジュラーシステム
MeetUp シリーズ	ハドルルームや小規模会議室向けのコンパクトなオールインワン会議カメラ。簡単にセットアップして使用できます。
Tap シリーズ	さまざまな会議プラットフォームをサポートし、会議室を効率的に管理できる会議室向けタッチコントローラ
RoomMate シリーズ	対応している会議用カメラと会議室ソリューション周辺機器向けの CollabOS（Android）アプライアンス
Scribe、SWYTCH、Dock シリーズ	ビデオ会議ルームに対応したホワイトボードカメラ（Scribe）、ラップトップをルームシステムの AV 機器に接続するデバイス（SWYTCH）、会議制御機能、スピーカーフォン、USB 接続を備えたオールインワンのドッキングステーション（Dock）
Sight	複数の参加者をインテリジェントにフレーミングできる卓上型カメラ
Logitech Sync および Options+	管理、モニタリング、カスタマイズのアプリケーション

出典：Omdia

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

図 13：Omdia Universe の評価 - Logitech



出典：Omdia

強み：顧客満足度の向上に重点を置いた幅広いポートフォリオ

Logitech は、小規模な会議室から高インパクトなスペースまで、ロータッチプロビジョニングで迅速に展開できるソリューションを提供していることから、ポートフォリオの幅広さで 76% のスコアを獲得しています。マルチベンダーセットアップの欠点に直面せずにさまざまなスペースにビデオを手頃な価格で拡張したい組織にとって、これは非常に重要です。Omdia が 2023 年に公開した『企業向けビデオ会議機器およびサービスに関する調査（Enterprise Video Conferencing Equipment and Service Survey）』によると、企業はあらゆるビデオ会議ニーズを単一ベンダーで対応したいと考えています。Logitech は設計主導のアプローチを取り、Logi Dock、Web カメラ、UC&C ヘッドセット、Logi Spot、Logi ホワイトボードカメラ（Scribe）など、顧客のユースケースに対応したポイントソリューションを提供しているため、柔軟性と幅広い補足的な会議室ソリューションを必要とする企業には信頼できる選択肢となります。同社は 2025 年に Logi Sight や Logi Rally Board 65 などの革新的なデバイスを発表し、進化を続けています。

Logitech はベンダーの実行能力のカテゴリでも 85% の評価を獲得しており、顧客体験の提供と広範なエコシステム パートナーシップの促進においてクラス最高のプロバイダーとして高い評価を受けました。さらに、エンタープライズグレードのパフォーマンスと信頼性を常に実現しており、エンタープライズベンダーとしての評判を高めています。Logitech の製品は価格が手頃で、すぐ

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

に使用できるように設計されており、サードパーティのコンピューティング、オーディオソリューション、アクセサリと連携させることができます。同社は、カスタマーサービスと顧客満足度についても平均以上の評価を獲得しています。

Logitech は持続可能性への取り組み（サブカテゴリ）でも 85% の評価を獲得しており、顧客の二酸化炭素削減目標の達成に役立つ製品を提供できるフロントリーダーとして、ビデオ会議業界での地位を確立しました。

Logitech は、コラボレーション向けの AI ツールの提供に対する同社の取り組みが評価され、AI 機能のサブカテゴリで 75% という注目すべきスコアをマークしました。RightSight2 や RightSound2 など、音声とビデオを強化する AI テクノロジーが、顧客のユーザー体験向上に貢献しています。同社は、ユーザーのニーズの進化に応えるため、定期的なソフトウェア アップデートでサービスを最適化しています。

課題

Logitech は製品の多様化を進めていますが、現在のところ、モジュール型の会議室向けのソリューションがありません。コンシューマ市場では高い評価を得ていますが、B2B セクターでのプレゼンスをさらに高めていく必要があります。以前はチャネル戦略を重視していなかったので、激しい競争に直面していました。この課題を軽減するために、現在はチャネル主導の販売イニシアチブを重視しています。

Neat（Omdia 評価：リーダー）

Neat はビデオ会議デバイスベンダーとして認知されており、使いやすさと魅力的なデザインに重点を置いた高度に差別化されたポートフォリオにより、市場における地位を着実に高めています。

Neat が最終候補となるケース

- 従来の会議室を、従業員のニーズに合わせて調整できる使いやすいコラボレーションスペースに移行したいと考えている場合。
- 製品品質と顧客満足にこだわるベンダーを探している場合。Neat は顧客の問題に迅速に対処するため安心です。
- 単なる会議デバイスにとどまらないセキュアな多目的デバイスを求めている場合。Neat のデバイスは、Miro、klaxon、LucidSpark などの他のワークプレイス生産性アプリケーションとともに使用できます。この機能で競合できるベンダーは業界で一握りです。
- 魅力的でシンプルかつ使いやすい包括的な VC ソリューションを求めている場合。Neat は、コラボレーションボード、個人デバイス、ビデオバー、360 度カメラを提供しています。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

概要

Neat は、この Omdia Universe でリーダー企業に分類されており、全体の非加重スコアは、機能が 75%、戦略と実行能力が 74%、ソリューションの幅広さのスコアは 79% でした。Neat は包括的なポートフォリオで定評があり、競争の激しい市場で際立った存在です。2024 年にはビデオバーセグメントで約 8%、コラボレーション ボード セグメントで約 12% の市場シェアを獲得しました。**表 1** に同社のポートフォリオを示しています。

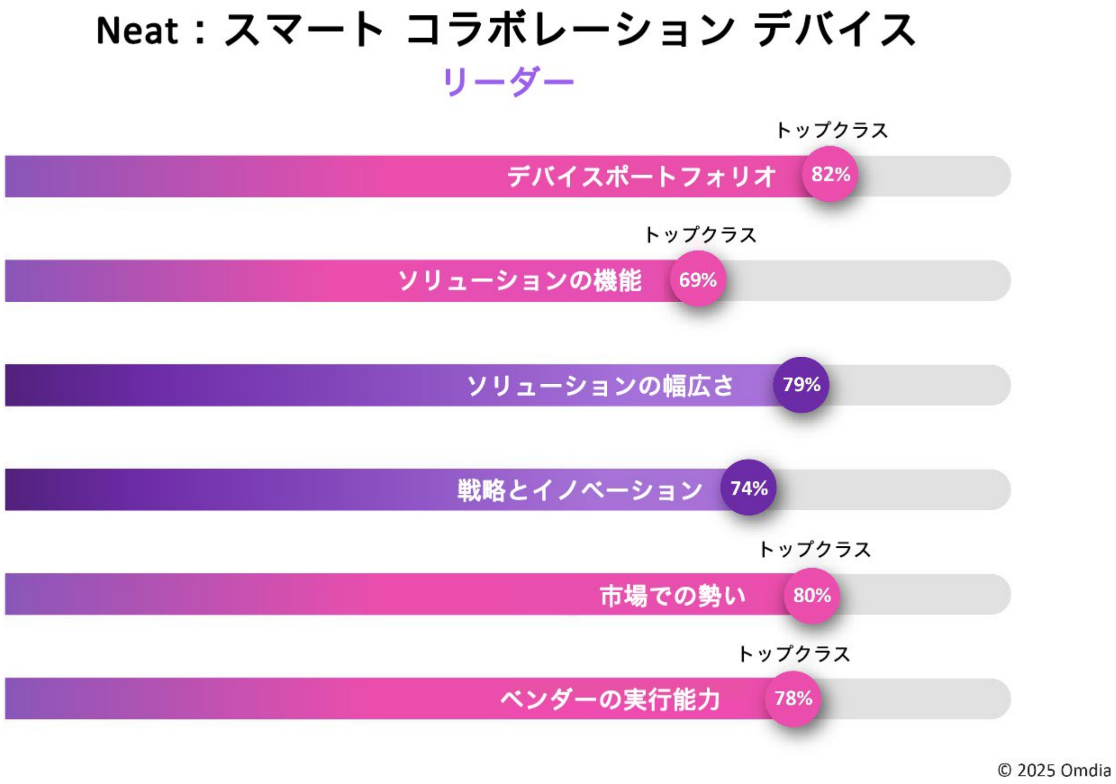
表 1：ポートフォリオ - Neat

デバイス	説明
Neat Bar Generation 2	小規模な会議スペース向けのビデオバー
Neat Bar Pro	大規模な会議室向けのビデオバー
Neat Board シリーズ	タッチスクリーンとカメラを備えたコラボレーションデバイス
Neat Frame	個人のワークスペースと訪問者管理のためのビデオデバイス
Neat Pad	会議用のタッチ スクリーン コントローラ。 会議室以外でも、会議室の予約用スケジューラーとして使用できます。
Neat Pulse	デバイスの展開、サポート、保証を含むサービス
Neat Select	Neat Bar および Neat Bar Gen 2 を BYOD 専用デバイスとして使用できる一元管理可能なソリューション

出典：Omdia

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

図 14：Omdia Universe の評価 - Neat



出典：Omdia

強み

Neat はポートフォリオで 82% という素晴らしいスコアをマークしました。同社は、ハドルルームからオープンエリアまでのあらゆるコラボレーションスペースに適したデバイスを提供する数少ないプロバイダーの 1 社として評価されています。Neat Board や Neat Pad などのデバイスは、デザイン性に優れ、配線が少なく、タッチスクリーン インターフェイス機能を備えています。Neat Board 50 は、簡単に移動して使用できる柔軟なビデオ コラボレーション ツールです。Neat Frame は縦型のパーソナルビデオ会議デバイスであり、Neat App Hub を介したワークプレイス管理とデジタルサイネージに対応しています。

サブカテゴリの中で Neat が 2 番目に高いスコアを獲得したのはモニタリングおよび管理で、87% でした。Neat Pulse ソリューションは、いくつかの理由から競合他社の中で際立っています。リアルタイムのステータスレポート、会議室の占有率の追跡、空気の質のモニタリングといった包括的なデバイスモニタリング機能によって、会議スペースのパフォーマンスを最適化します。IT 管理者は遠隔管理機能を使用して、Neat デバイスの制御、設定、更新を効率的に行うことができます。複数のデバイスの更新、再起動、ログ取得といった一括操作により、時間と労力を同時に節約できます。シングルサインオン、監査証跡、役割別の管理アクセスなどのセキュアアクセス機能は、セキュリティと制御を強化します。さらに、Neat Pulse は、テクニカルサポートの優先対応と迅速なデバイス交換を保証するプレミアムサポートの提供によって、ダウンタイムを最小限に抑えます。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

Neat で 3 番目に高かったサブカテゴリはスマート統合で、スコアは 83% でした。Neat App Hub は、重要なアプリケーションを Neat デバイスに直接提供し、Neat Pulse からアクセスして一元管理できます。また、Neat 製デバイスには、Neat Sense で室内環境情報を取得するためのセンサーも組み込まれており、会議室の使用状況と環境要因を測定できます。Neat は Shure と連携して、音響面で困難を伴う大規模スペースで音声を強化しています。また、家具メーカーと協力して、効率的なオフィススペースの設計にも携わっています。

課題

Neat のソリューションは革新的な機能を提供していますが、カスタムキットや他社製デバイスとの統合といったオプションがありません。Neat の顧客はすっきりとしたソリューションを好みますが、レイアウトが複雑な会議室や高インパクトなスペースでは、部屋のレイアウトに応じて簡単にカスタマイズできるオープンシステムの方が適しています。しかし Neat のデバイスは急速に進化しており、同社は大規模スペース向けの新しいソリューションの追加を計画しています。

Owl Labs（Omdia 評価：ビジョナリー）

Owl Labs は、小・中・大規模スペース向けのビデオ会議ソリューションを提供する新しいプロバイダーであり、革新的なプラグアンドプレイの USB ソリューションを提供しています。

Owl Labs が最終候補となるケース

- 会議室のライセンス、専用コンピューティング、特殊な周辺機器やアクセサリに関連する不要コストを削減する柔軟な会議室ソリューションが必要な場合。
- 使いやすさを重視しており、ユーザーがラップトップや個人デバイスから簡単に会議に参加できる必要がある場合。
- AI テクノロジーに投資して業界のトレンドを先取りしている企業を評価している場合。
- セットアップが簡単で、高度に差別化されたポートフォリオを競争力のある価格で入手したい場合。
- 中小規模の会議室にビデオを手頃な価格で拡張したい場合。

概要

Owl Labs は、この Omdia Universe でビジョナリー企業に分類されており、全体の非加重スコアは、機能が 61%、戦略と実行能力が 67%、ソリューションの幅広さのスコアは 68% でした。Owl Labs は、革新的な USB カメラソリューションで注目されており、この独自のソリューションが競争の激しい市場で同社の存在を際立たせています。主力製品は Meeting Owl です。360 度対応のカメラ、マイク、スピーカーシステムを搭載し、発言者に自動的にフォーカスすることで、より公平な会議体験を提供します。多くのベンダーが Meeting Owl のような製品を提供しようと努めていますが、Owl Labs の機能と価格に匹敵するスタンドアロンの 360 度カメラソリューションを開発したベンダーは存在せず、この付加価値が同社の競争力を高めています。Owl Labs は、ポートフォリオの充

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

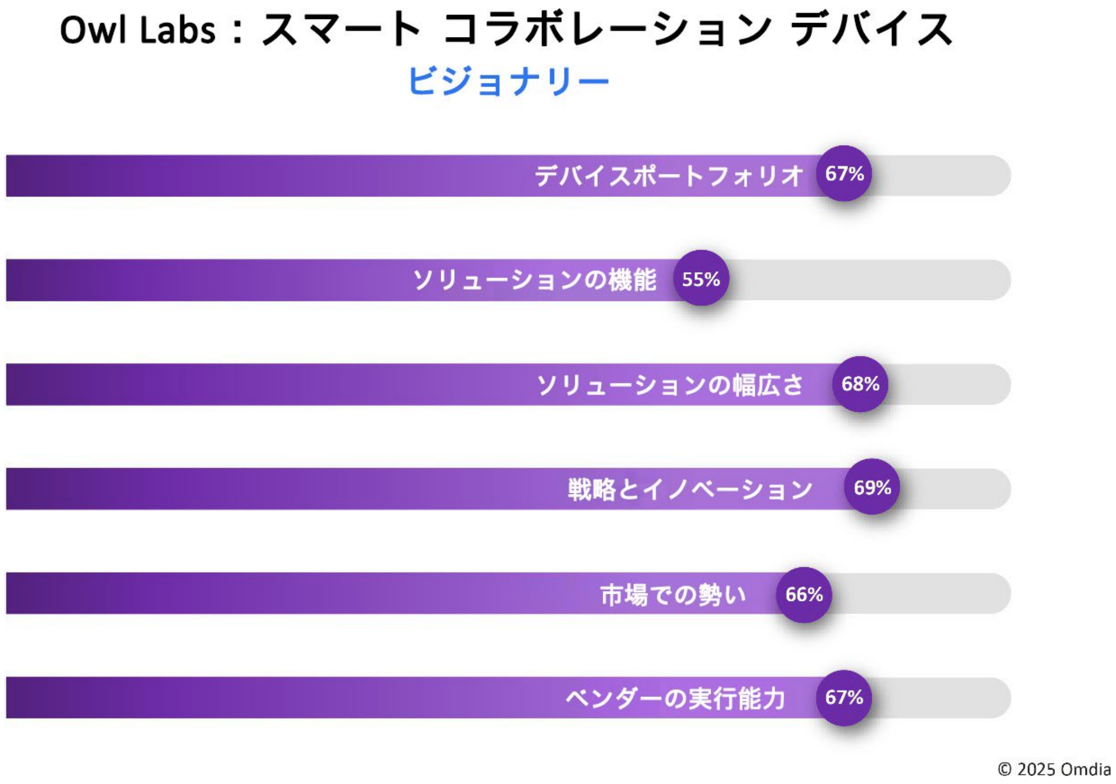
実度が足りなかったため「チャレンジャー」には至りませんでしたが、持続可能性、イノベーション、BYODと柔軟な会議室ソリューション、展開の容易さでは優れていました。ポートフォリオの不足部分については、事実上、パートナーであるMaxhubとLenovoに依存しています。**表1**に同社のポートフォリオを示しています。

表1：ポートフォリオ - Owl Labs

デバイス	説明
Meeting Owl シリーズ	インテリジェントな発言者追跡機能とオートフォーカスを搭載した360度対応ビデオ会議デバイス
Owl Bar	会議室前方に設置する、カメラ、マイク、スピーカーの一体型デバイス（Meeting Owlシリーズと連携するフロントバー）
Whiteboard Owl	ビデオ会議中にホワイトボードの内容をキャプチャして共有するデバイス
Expansion Mic	大規模な会議スペースでの音声カバー範囲を拡大するための追加のマイク

出典：Omdia

図15：Omdia Universeの評価 - Owl Labs



出典：Omdia

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

強み：常にイノベーションを追求

Owl Lab は中小規模のスペースで優れており、92% を獲得しています。中小規模のスペースに対応するソリューション一式を提供しており、BYOD モードで展開することも、外部コンピューティングおよびコントロールパネルと組み合わせてルームキットとして展開することもできます。Owl Lab のワイヤレスシステムを使用すると、360 度の USB カメラとフロントバーをペアで、あるいはスタンドアロンで使用して、マルチカメラセットアップを構築できます。このシステムでは、マイクやスピーカーなどの追加のアクセサリをデイジーチェーン方式でつなぐこともできます。

Owl Labs はイノベーションに関して 80% のスコアをマークしました。同社は長年にわたって AI テクノロジーに定期的に投資し、発言者追跡、グループフレーミング、背景雑音除去などの機能を追加し、業界のトレンドを先取りしてデバイスポートフォリオを強化してきました。Owl Intelligence System は、AI と機械学習を使用して、カメラの視点を強化し、ビデオストリームを統合します。また、ハイブリッド環境における顧客の課題を把握し、クリーンかつシンプルでわかりやすいポートフォリオを維持しています。さらに、アクセサリと Owl Bar のような新しいデバイスを導入してビジネスを拡大し、既存の顧客が手頃な価格で小規模から大規模の会議室にビデオコラボレーションを拡張できるようにしました。Owl Labs の対象は企業部門（主に中小企業）、公共機関、教育機関であり、これらのセクターは品質と使いやすさを重視しています。BYOD ルームで使用できる高度に差別化されたポートフォリオを維持するという戦略は、Owl Labs の成功に貢献しています。同社は、創造性とコラボレーションの文化を育むとともに、イノベーションを事業の核に据え続けています。

Owl Labs の第 3 の強みであるサブカテゴリはデバイス機能であり、76% のスコアを獲得しました。同社は、単独で、またはオールインワン ソリューションとして機能するマルチカメラシステムを提供しています。Meeting Owl と Owl Bar は、予算に合わせてさまざまな組み合わせが可能です。AI を活用したノイズキャンセリング、音量均一化、自動フレーミング、無音切り替えを備えており、SuperSpeed ケーブルを通じて 4K 30fps の映像を提供します。Owl Labs のソリューションは Microsoft Teams の認定を受けており、米国連邦政府向けに TAA 準拠のオプションが含まれています。BYOD デザインは中小企業に人気があり、企業は好みのコラボレーション会議サービスを会議やコンテンツ共有に使用できます。

戦略に関する Omdia の見解

Owl Labs は、革新的なテクノロジー パートナーシップを活用して、エンタープライズセグメントでのプレゼンス強化を目指しています。多くの競合他社は GTM 戦略をチャネルのみに依存していますが、Owl Labs はマネージド サービス プロバイダー（MSP）、小売店、小売店の Web サイト、直販、チャネルパートナーシップなど、さまざまなルートを活用しています。他のベンダーとのコラボレーションも重要な戦略的優先事項です。特に、ルームコントローラや会議室コンピューティング ソリューションなど、同社のサービスが不足している分野で効果を発揮しています。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

課題

Owl Labs の主なターゲットは中堅・中小企業（SMB）部門です。ただし、必ずしもこれが制約というわけではありません。同社はエコシステム パートナーシップに注力しており、パートナーネットワークと製品のシンプルさを通じて成長と拡大を目指しています。Owl Labs は、カスタマーサポートとポートフォリオ拡充のさらなる推進に集中する必要があります。Owl Labs からの情報提供によれば、同社は Maxhub および Lenovo との提携によってポートフォリオの不足部分に戦略的に対処するとともに、強力なパートナーネットワークを通じてカスタマーサポートを拡大しています。同社は一部の競合他社と比べてマーケティングリソースの課題に直面していますが、製品の使いやすさと適応力があれば自社を効果的に宣伝できると考えており、これを商機と見なしています。Omdia も、Owl Labs が包括的な会議室ソリューションを提供しているわけではないと認識しています。とはいえ、同社のロードマップは有望と思われます。MDEP ベースの製品など、いくつかのイノベーションがまもなくリリースされる予定です。

Yealink（Omdia 評価：リーダー）

Yealink は、Microsoft、Zoom、およびその他のプラットフォームで認定された手頃な価格の会議室ソリューションの中では最も幅広いポートフォリオを提供しているベンダーの 1 社です。当初は SIP 電話のプロバイダーでしたが、ビデオ会議市場に迅速に参入し、幅広い業種とユースケースに適した製品を提供しています。

Yealink が最終候補となるケース

- **費用対効果の高いソリューションを求めている場合。** Yealink は、製造とサプライチェーンの戦略的な効率化により、高品質の製品を競争力のある価格で提供しています。
- **迅速なイノベーションを重視している場合。** Yealink は、研究開発への投資と俊敏な製造プロセスを確保することで市場動向に適応し、新しいテクノロジーを迅速に提供しています。
- **柔軟性と選択肢が必要な場合。** Yealink は、さまざまなビジネスニーズに合わせてカスタマイズ可能な幅広い選択肢を提供しており、特定の要件に合わせてソリューションを調整することができます。
- **グローバルな可用性を重視する場合。** Yealink は、世界中の顧客が製品とサポートを利用できるよう、グローバルネットワークを構築しています。

概要

スマート コラボレーション デバイスに関するこの Omdia Universe で、Yealink はリーダー企業に分類されており、全体の非加重スコアは、機能が 75%、戦略と実行能力が 84%、ソリューションの幅広さのスコアは 83% をわずかに超えています。Yealink は、他の 5 つのサブカテゴリでも平均を上回っています。Yealink が他社を上回っているのは GTM 戦略です。この戦略によって、同社は新

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

しい市場に迅速に参入し、市場シェアを拡大させ、認知度を高め、さまざまなチャネルパートナーと連携し、82% という素晴らしいスコアをマークしました。Yealink が他のマーケットリーダーと同様のスコアをマークしたのは持続可能性です。同社は環境に優しい活動を重視し、リサイクル可能な材料を使用し、ISO 14001 や ISO 14064 などの認定を取得しています。**表 1** に同社のポートフォリオを示しています。

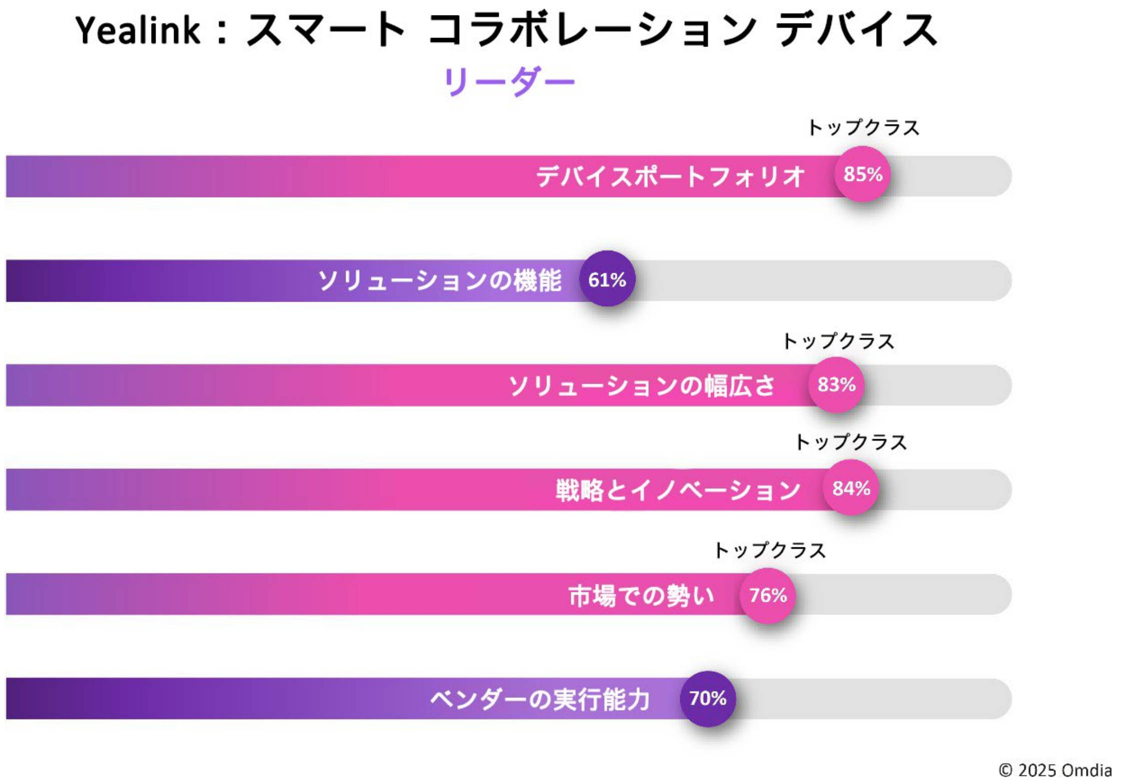
表 1：ポートフォリオ - Yealink

デバイス	説明
Meeting Eye シリーズ	AI を活用した機能を搭載した、小規模から大規模の会議室向けのオールインワンビデオ会議システム
コラボレーションボード	会議室でのシームレスなコラボレーションを実現するインタラクティブ ディスプレイ
Meeting Bar シリーズ	小・中・大規模会議室に適した Android ベースのビデオバー
MVC シリーズ	小・中・大規模会議室に適した Windows ベースのルームキット
SIP/H.323 エンドポイント	オンプレミス展開に対応した標準ベースのインフラストラクチャとエンドポイント
管理プラットフォーム	通信デバイスを管理および最適化するためのツール（Yealink Device Management Platform など）
アクセサリ、周辺機器、補完的ソリューション	SIP 電話および会議用電話、ヘッドセット、Web カメラ、アクセサリ、スケジューリングパネル、ルームセンサー

出典：Omdia

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

図 16：Omdia Universe の評価 - Yealink



出典：Omdia

強み

Yealink は、ポートフォリオのカテゴリで 85% というトップスコアをマークしました。同社は、小規模会議室およびハドルルームから大規模会議室まで、あらゆる会議スペースに対応する包括的な製品ポートフォリオを提供しています。ソリューションには、中小規模会議室向けの Android ベースのオールインワンシリーズ、大規模会議室向けの Windows ベースのルームキット、オープンスペース向けのインタラクティブなコラボレーション ディスプレイが含まれています。Yealink は他にも、インテリジェントな USB カメラやヘッドセット、管理プラットフォームを提供しており、多様な環境におけるシームレスな統合と高品質のパフォーマンスが実現します。Omdia は、同社のデバイスが Microsoft Teams、Zoom、Google Meet、RingCentral など、すべての主要プラットフォームで動作が認定されていることを高く評価しています。同社のデバイスは、組織のニーズに合わせて簡単に使い方を変えられます。

Yealink は、戦略とイノベーションで 84% という素晴らしいスコアを獲得しました。Omdia は、パートナーと顧客を迅速にサポートするために新しいソリューションを導入する同社のイノベーションと俊敏性を高く評価しています。Yealink は Microsoft との連携により、Microsoft Teams Rooms への需要に応える手頃な価格のさまざまなソリューションを発売しており、これらのソリューションは多くの場合、Microsoft Teams プラットフォームの新機能をサポートする最初のソ

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

リューションとなりました。同社は Microsoft や Zoom などのプラットフォーム プロバイダーと緊密に連携し、コラボレーション会議プラットフォームや関連するソフトウェア アップデートとの間でデバイスの互換性を確保しています。

Yealink は市場で好調な勢いを見せており、このカテゴリで 76% を獲得しています。同社のソリューションは世界中で提供されており、医療、教育、金融業界など、多くの業種で展開されています。Omdia の『企業向けユニファイド コミュニケーションおよび音声機器市場調査 - 2024 年第 4 四半期および 2024 年の通期データ、2025 ~ 2029 年の予測（Enterprise Unified Communications and Voice Equipment Market Tracker - 4Q24 and CY24 Data and 2025–29 Forecast）』によれば、Yealink の市場シェアは 2021 年の 3% から 2024 年には 9% に拡大しました。これは、多くのベンダーが存在する競争の激しい業界で高い成長を遂げた結果です。

課題

Yealink の最も弱いサブカテゴリは顧客体験ですが、他の多くのベンダーより高いスコアをマークしています。最も評価の低いサブカテゴリではあるものの、同社はプレミアムサービスの提供によってカスタマーサービスの強化に取り組んでいます。カスタマイズとパーソナライズが可能で、プロアクティブかつきめ細やかなこのサポートパッケージを利用することで、顧客は Yealink のソリューションを世界のどこでも管理することができます。同社は競争力のある機能を提供しているにもかかわらず、他のブランドよりもプレミアム感が弱いと受け取られることがあります。Omdia は、同社が市場プレゼンスの拡大とともにブランド関連の誤解を早期に解消できると考えています。

付録

手法

Omdia Universe

Universe レポートは、Omdia の厳格な手法に基づき、次の手順で作成されます。

- Omdia の市場予測データと企業インサイトに関する Omdia の調査データを使用して、Omdia のアナリストが市場を詳しく評価します。
- 現在、そして今後 12 ~ 18 か月間に市場において重要になると考えられる機能、属性、特長のマトリックスを作成します。
- ベンダーにインタビューを行い、現在のソリューションと将来の計画について詳細な説明を受けます。

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

- アナリストは、業界イベントやユーザー向けカンファレンスから得た他の情報を加味して、ベンダーの説明を補完します。
- Omdia の他のアナリストがこの Universe レポートのピアレビューを行い、その後、専任の編集チームが校正を行います。

選定基準

Omdia は、Omdia Universe において、ビデオ会議デバイスおよび機器の選定基準を入念に策定しました。リサーチでは、以下の基準の 7 項目以上を満たすベンダーのみが対象となります。

- **1. 包括的なポートフォリオ：**ベンダーは、小・中・大規模会議室や高インパクトな会議室など、さまざまなスペースにソリューションを展開できる広範なポートフォリオを提供している必要があります。また、Android および Windows ベースの OS に基づくソリューションを直接、またはコンピューティング プロバイダーとの提携を通じて提供している必要があります。
- **2. AI および自動化機能：**ベンダーは、会議室でのユーザー体験を向上させるために、AI を活用した機能を提供している必要があります。
- **3. 分析およびインサイト/レポート：**ベンダーは、顧客の IT 担当者がソリューションのリモートモニタリングと管理を行えるように、クラウドベースのモニタリングおよび管理プラットフォームを提供している必要があります。また、顧客データの収集、キャプチャ、分析、可視化、レポート作成を行い、インサイトを導き出し、メトリックを追跡できるように、高度な分析ツールが必要です。こうしたインサイトは、管理者が使用状況やユーザーの好み、エンゲージメントパターンを把握し、導入と利用を促進するうえで役立ちます。
- **4. 設定機能とカスタマイズ：**ビジネスユーザーがデバイスを特定のユースケースに適応できるように、デバイスはある程度カスタマイズできる必要があります。
- **5. センサー：**管理性、適応性、使いやすさを高めるために、組み込み型センサーを介して会議室のデータ（会議参加者の数、環境/会議室テレメトリなど）を分析する機能をサポートしている必要があります。
- **6. API/SDK 統合機能：**会議室の自動化とデバイス間のデータフローを促進するために、API およびコネクタを介した他のサードパーティ ソリューションとのシームレスな統合も必要です。
- **7. セキュリティとコンプライアンス：**デバイスは、欧州連合や米国など、さまざまな市場や地域におけるセキュリティとコンプライアンスの要件に対応している必要があります。
- **8. 迅速に展開できるように、マウント、ケーブル、固定器具などのアクセサリが必要です。**

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

- **9. 関連する新テクノロジーに対応する機能：**使いやすさを向上させ、会議スペースの活用を促進する新テクノロジーには、インテリジェントなワークスペース予約ソフトウェア、会議室の空き状況と会議室のメトリックを表示するスケジューリングパネル、ワンクリックで素早く会議に参加できる室内用デジタル会議コントローラ、最適な環境制御設定を確保できるルームセンサーなどがあります。
- **10. Bring Your Own Meeting（BYOM）機能のサポート：**ルームキットとアプライアンスを BYOM モードで使用できるようにするために、包括的な BYOM ソリューションや追加の周辺機器を提供しているベンダーも対象となります。
- **11. 相互運用性：**自社デバイスとの相互運用性ソリューションを提供するか、相互運用プロバイダーと提携して、あらゆるビデオ会議アプリケーション間の接続（エニーツーエニー接続）を可能にするベンダーも対象となります。
- **12. 認定：**認定サービスを通じて、コラボレーションと生産性のクラウドサービス、アプリケーション、プラットフォームの広範なエコシステムをサポートしている必要があります。
- **13. マネージドサービスとプロフェッショナルサービス**も必要です。
- **14. 充実したグローバル チャネル パートナー コミュニティ**も必要です。

その他の参考資料

『企業向けユニファイド コミュニケーションおよび音声機器市場調査 - *2024 年第 4 四半期および 2024 年の通期データ、2025 ～ 29 年の予測（Enterprise Unified Communications and Voice Equipment Market Tracker –4Q24 and CY24 Data and 2025–29 Forecast）*』（2025 年 3 月）

『UC&C ベンダー、革新的で洗練されたシンプルな会議室ソリューションを ISE 2025 で発表（UC&C vendors present innovative, sleek, and simplified meeting room solutions at ISE 2025）』（2025 年 2 月）

『企業のビデオ会議デバイスに関する調査 *2024 年（Enterprise Video Conferencing Devices Survey 2024）*』（2025 年 1 月）

『ビデオ設備を備えた会議室、不可欠であるものの大規模導入にはコストがネックに（Video-equipping meeting rooms is crucial but costly for full-scale implementation）』（2025 年 1 月）

『*2025 年の注目トレンド：ユニファイド コミュニケーションとコラボレーション（2025 Trends to Watch: Unified Communications and Collaboration）*』（2024 年 12 月）

『*UCaaS - 市場データと 2024 ～ 2028 年の予測 - 2024 年上半期（UCaaS - Market Data and 2024-2028 Forecast - 1H24）*』（2024 年 10 月）

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

『MDEP のジレンマ：Microsoft の大胆な動き、ベンダーの多様性への挑戦となり得るか（The MDEP Dilemma: Microsoft’s bold move or a blow to vendor diversity）』（2024 年 7 月）

『企業向けビデオ会議機器およびサービスに関する調査（*Enterprise Video Conferencing Equipment and Service Survey*）』（2023 年 11 月）

『*Microsoft Teams* との相互運用性、シスコの戦略の鍵に（*Interoperability with Microsoft Teams becomes key to Cisco’s strategy*）』（2022 年 11 月）

『*Omdia Universe* コラボレーション会議サービス *2022 ～ 23* 年（*Omdia Universe Collaborative Meeting Services 2022-23*）』（2022 年 6 月）

執筆者

UC&C 担当主席アナリスト、Prachi Nema

askananalyst@omdia.com

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.

引用ポリシー

Omdia のリサーチとデータの引用をご希望の場合は、citations@omdia.com にお問い合わせください。

Omdia へのご相談について

このレポートの分析が、情報に基づく独創的な意思決定に役立つことを願っています。さらにご要望がございましたら、Omdia のコンサルティングチームがご相談を承ります。Omdia のコンサルティングの詳細については、consulting@omdia.com に直接お問い合わせください。

著作権情報と免責事項

本書に記載されている Omdia のリサーチ、データ、情報（以下「Omdia 資料」）は、TechTarget, Inc. およびその子会社または関係会社（以下総称して「Informa TechTarget」）またはその第三者データ提供者が有する著作物であり、Informa TechTarget が公表したデータ、リサーチ、見解、または視点を表すものであって、事実を表すものではありません。

Omdia 資料は、本書の発行日ではなく、当該資料の初版発行日の情報と見解を反映しています。Omdia 資料に掲載されている情報や見解は、予告なく変更される場合があります。したがって、Informa TechTarget は、Omdia 資料または本書を更新する義務または責任を負いません。

Omdia 資料は「現状のまま」、「利用可能な状態」で提供されます。Omdia 資料に含まれている情報、見解、および結論の公平性、正確性、完全性、または正当性については、明示的か黙示的かを問わず、表明または保証は一切行いません。

法で許容される範囲を上限として、Informa TechTarget およびその関連会社、役員、取締役、従業員、代理人、および第三者データ提供者は、Omdia 資料の正確性、完全性、または使用に関していかなる責任（過失や過誤によるあらゆる責任を含むが、これに限定されない）も放棄します。Informa TechTarget は、いかなる状況においても、Omdia 資料に基づいて、または Omdia 資料に依存して行われた取引、投資、商業、またはその他の判断について責任を負いません。

お問い合わせ

omdia.com

askananalyst@omdia.com

© 2025 Omdia. All rights reserved. Unauthorized reproduction prohibited.